

取扱説明書



コーヒーマシン

5000 S+

日本語

01.01.001

弊社のWMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

WMF 5000 S+はエスプレッソ、カフェクレーム、カプチーノ、カフェテ、ラテマキアート、ミルクフォーム、熱湯を供給する全自動コーヒーマシンです。

おションのバウダーホッパーを使用すると、WMF 5000 S+ではミルクもしくはミルクフォーム入りのホットチョコレートを作ることができます。

取扱説明書の指示に従ってください



- > 使用前に取扱説明書をお読みください。
- > 取扱説明書、特に安全上の注意事項と「安全性」の章の指示を遵守してください。
- > コーヒーマシンの警告注記に注意してください。
- > 取扱説明書はスタッフや全ユーザーがいつでも参照できるようにしてください。

注意

取扱説明書の記号とアイコンに従ってください

20ページ以降

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。

警告

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

設置と使用環境

- > メンテナンス規定や「テクニカルデータ」の章にある規定の遵守を怠った場合、損害が発生しても一切責任を負いかねます。
- > 取扱説明書の指示に従ってください。
- > メンテナンスと修理作業は、必ずWMFサービスが純正スペアパーツを使用して行う必要があります。

重要

テクニカルデータ

▷101ページ以降

メンテナンス

▷89ページ以降

1	安全性	7
1.1	一般的な安全上の注意事項	7
1.2	使用目的	14
1.3	設置と使用環境	17
2	概要	18
2.1	コーヒーマシンの各部名称	18
	供給可能表示	18
	用語集	21
3	操作	22
3.1	操作についての安全上の注意事項	22
3.2	その他書類	22
3.3	コーヒーマシンのスイッチを入れる	23
3.4	ミルクまたはミルクフォーム	23
3.4.1	ミルクを接続する	23
3.5	飲料供給	24
	飲料のキャンセル	24
3.6	事前選択パッド (オフ ション)	24
3.7	特別ボタン (オフ ション)	25
3.8	自由なカップ 容量の選択	25
3.9	熱湯供給	25
3.10	スチーム供給	26
3.10.1	オートスチーム (オフ ション)	27
3.10.2	イージー スチーム (オフ ション)	27
3.11	コップ 供給口の高さ調整	28
	自動高さ調整	28
3.12	コーヒ-豆ホッパー/パウダーホッパー	28
3.13	マニュアル投入口ロック可能	29
3.14	コーヒ-カ受け	30
3.15	コーヒ-カ落とし (オフ ション)	30
3.16	ドリップトレイ	31
3.17	コーヒーマシンのスイッチを切る	31
4	ソフトウェア	32
4.1	概要	32
	供給可能	32
	供給可能表示のパッド	32
	メインメニューの機能	33
	メニュー制御パッド	33
	パッド上の通知	33
4.2	供給可能表示	34
4.2.1	飲料ボタン	34
4.2.2	機能ライン	34
	熱湯ボタン	34
	スチームジェットパッド	34
	ホットリンスパッド	35

目次

栄養成分情報	35
カップ サイズ 調整	35
S/M/Lボタン	35
バリスタボタン - コーヒーの濃さ	35
ミルクシステム補充	36
2.ミルク種類	36
スチームボタン	36
4.2.3 スチーム エットカップ ウォーマー	37
4.3 カスタマーケア	38
システムクリーニング	38
ミキサーリンス	38
ミルクシステムのクリーニング	38
ミルクシステムのリンス	39
ウォーマーのリンス	39
グリーンロック	39
説明	39
ミルクシステム補充 (ダイミックスミルク)	39
ドリップ トレーのクリーニング	39
4.4 飲料	40
概要	40
カップ 容量、複数倍の抽出と供給オプション	41
レシビ の変更	43
コーヒー ライター を選択	46
テキスト、画像、カップ 高さ	46
ボタンの入れ替え	47
4.5 操作オプション	48
操作に関する部分	48
ボタンのレイアウト	51
ボタンのセレクション	52
カフェインフリー	52
飲料のセレクション	53
飲料のキャンセル	53
ミルクフォームの選択	53
ロゴ	54
4.6 インフォメーション	55
前回の抽出	55
タイマー	55
サービス	55
カスタマーケア	55
浄水フィルターとカルキ除去	55
プロトコル	55
4.7 会計	56
カウンター	56
自動販売機	56
外部会計	56
無料設定	57
4.8 PIN権限	57
クリーニング PIN	58
設定PIN	58
会計PIN	58
新しいPINを入力	58

4.9	タイマー	59
	タイマー予定表とタイマーの設定	59
	本日の詳細	59
	タイマー設定	59
	タイマーステータス	60
	ボタノリアクトの概要	60
	ボタノリアクトの状態	60
	モードの概要	61
	モード状態	61
	時刻/日付	61
4.10	システム	62
	キー	62
	プログラシディスプレイ	62
	品質チェック(タケミックミルク)	63
	ディスプレイと照明	63
	パネルの照度	64
	ディスプレイ照度は自動的に減少	64
	タッチキャリブレーション	64
	パネルの背景	64
	飲料:文字+色	65
	浄水フィルター	65
	モード	66
	スイッチオフリス	66
	挽き目設定	67
	抽出圧表示	67
	S/M/L機能	67
	栄養成分情報	68
4.11	言語	68
4.12	モード	68
	モード表示	69
4.13	USB	69
	レシポをロードする	69
	飲料のマークをロードする	69
	レシポの保存	70
	カウンターのイクスポート	70
	HACCPイクスポート	70
	データのバックアップ	70
	データをロードする	70
	言語をロードする	70
	ファームウェアの更新	70
5	メンテナンス	71
5.1	安全上の注意事項 マaintenance	71
5.2	クリーニング頻度の概要	73
5.3	クリーニングプログラム	74
5.3.1	システムクリーニング	74
5.3.2	ミキサーリス	75
5.3.3	ミルクシステムのクリーニング	76
5.3.4	フォーマのリス	77
5.3.5	フォーマのリス(タケミックミルク)	77

目次

5.4	クリーニング (手作業)	78
5.4.1	操作パネルをクリーニング (クリーンロック)	78
5.4.2	コーヒーが受けのクリーニング (挽いた豆のスライド / オプション)	78
5.4.3	ドリッパートレのクリーニング	79
5.4.4	外装のクリーニング	79
5.4.5	ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージーマルク)	80
5.4.6	コヒ供給口の手動クリーニング (タ イケミックミルク)	81
5.4.7	ミキサーのクリーニング	81
5.4.8	スチームノズルのクリーニング	82
5.4.9	コーヒー豆ホッパーのクリーニング	84
5.4.10	パウダーホッパーのクリーニング	85
6	HACCPクリーニングコンセプト	87
7	メンテナンスと清掃	89
7.1	メンテナンス	89
7.2	WMF サービス	90
8	メッセージと案内	91
8.1	操作上の通知	91
8.2	エラー通知と不具合	92
8.3	エラー通知なしの不具合	94
9	安全性と保証	96
9.1	コーヒーマシンに対する危険	96
9.2	ガイドライン	98
9.3	管理責任者の義務	99
9.4	保証請求	100
付録:テクニカルデータ		101
コーヒーマシンのテクニカルデータ		101
付録:アクセサリとスペアパーツ		105
索引		107

1 安全性



誤った使用法

- 安全上の注意事項に従わないと、大怪我をすることがあります。
- > すべての安全上の注意事項に必ず従ってください。

 警告

1.1 一般的な安全上の注意事項

1-ガー-に対する危険性

WMFの製品は、安全性に最大限配慮していることが大きな特徴です。以下に記載されている項目が守られていない場合は安全装置の効果が保証されません:



> 使用前に取扱説明書をよくお読みください。



> 高温になったマシン部分には触れないでください。



> コーヒーマシンが正しく機能しないか損傷している場合は絶対に使用しないでください。

> 完全に組み立てられている状態でのみ、コーヒーマシンを使用してください。

 注意



> 内蔵されている安全装置はどのような状況においても、絶対に変更しないでください。



- > マシンを8歳未満のお子様や身体が不自由な方、知的能力の弱い方、経験や知識不足の方が使用する場合は、必ず十分な使用経験と知識をお持ちの方がそばに付き添い、正しい知識や指示でマシンを安全に使用し、発生するリスクを理解した状態でお使いください。
- > お子様にマシンで遊ばせないでください。
- > クリーニング やユーザーメンテナンスをお子様にさせないでください。

⚠ 注意

安全装置が搭載されていても、コーヒーマシンの使用を誤ると危険です。怪我や健康被害のおそれを避けるために、コーヒーマシンを使用する際には以下の指示に従ってください。

感電死の危険あり

警告



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
 - > マシン外装は絶対に開けないでください。
 - > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。
 - > 電源ケーブルが損傷しないようにしてください。曲げたり、押しつぶしたりしないでください。
 - > 破損した電源ケーブルは絶対に使用しないでください。破損した主電源ケーブルの使用は危ないので、危険を避けるために製造者またはサービス担当者により交換を受けてください。
 - > 電源プラグを水や液体に浸けないでください。水や液体を電源プラグにかけないでください。プラグは常に乾燥した状態に保ってください。
 - > コーヒーマシンの背面にあるプラグは、電源からケーブルを外した後に引き抜きます。
 - > メンテナンスや修理の前にコーヒーマシンを電源から離してください。電源から離すにはプラグを引き抜きます。メンテナンスまたは修理を行う者は電源が入っていないことを必ず目視ではっきりと確認できなければなりません。



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 供給直後は供給口に触らないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

 **注意**




怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグラインダーに巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
 - > 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

 **注意**

 **指などを挟むおそれ/
怪我のおそれあり**

 **注意**

-  ・ コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- ・ 操作パ[°] 祉を閉じるときは、手や指が挟まれるおそれがあるので注意してください。
 - > コーヒーグ[°] ラインダ[°] -や抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。
 - > 操作パ[°] 祉を閉じるときは注意しながら行ってください。
 - > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。
-

 **健康被害のおそれ**

 **注意**

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
 - > パ[°] ウダ[°] -ホッパ[°] -, コーヒー豆ホッパ[°] -, マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。
-



健康被害のおそれ

- ミルクシステム用洗剤やクリーニング タブレットは刺激物です。
 - > 洗剤のパッケージに記載されている注意事項に従ってください。
 - > クリーニング タブレットはパネル上に通知が表示されてから使用してください。

⚠ 注意



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中にコンビ 供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷したりするおそれがあります。
- ドリップトレには高温の液体がたまっていることがあります。
 - > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
 - > 洗剤は絶対に飲まないでください。
 - > ドリップトレは慎重に動かしてください。

⚠ 注意

 **スリップの危険あり**

- コーヒーマシンの誤った使用、または不具合によって水漏れが発生する恐れがあります。これらの液体によるスリップの危険があるため、注意してください。
 - > コーヒーマシンの密閉性が保たれているか、水漏れがないか、定期的にチェックしてください。
-

 **注意**

1.2 使用目的



誤った使用法

警告

- ・ マシンを本来の目的以外で使用した場合、怪我のおそれがあります。
> コーヒーマシンは本来の使用目的のみで使用してください。

- ・ WMF 5000 S+はコーヒー、ミルク、パウダー（フョコ／トッピング）を組み合わせ適切な容器に飲み物を供給するように設計されています。
- ・ 使用するコーヒー豆、ミルク、トッピング、フョコパウダー製品は全自動コーヒーマシンでの加工に適したものを使用してください。消費期限を過ぎた製品は加工に使用しないでください。
- ・ 本機は業務用での使用を想定し設計されており、売店や事務所、レストランやホテル、または同様の使用環境にある専門員や教育を受けたユーザーによる使用を意図しています。また、ご家庭でも使用していただけます。

設置場所

- ・ 本機は教育を受けた人員が監督する環境であれば、セルフサービスで使用しても構いません。本機はよく見える場所に設置してください。
- ・ 本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。

- 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
- 水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

給水接続

- メインコックとフィルター（メッシュ幅0.08 mm）付き3/8インチのホース接続（現場側で用意）。流量2リットル/分時の最低水圧0.2 Mpa（2 bar）。最高水圧0.6 Mpa（6 bar）。最大供給温度 35 °C。
- 新品のコーヒーマシンおよび/または浄水フィルターに付属しているホースセットを使用すること。使い古したホースは再使用しないでください。

周辺温度

- 環境温度: +5 °C ~ +35 °C

使用

- 本機は必ずお手元の取扱説明書に従って使用してください。取扱説明書と異なったり、取扱説明書から逸脱したりする使用は、不適切とみなされます。これにより損傷が発生しても、製造者は一切責任を負いかねます。
- **WMF 5000 S+**はコーヒ-、熱湯（飲料、クリーニング液）あるいはミルク（冷蔵、低温殺菌、牀牛乳、ロングライフミルク）を加熱・供給するためのものであり、それ以外の使用は絶対に避けてください。

衛生

- コーヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。
- 事務所やフロアでの使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフが、カスタマーケア措置が守られていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

1.3 設置と使用環境



火災のおそれ/事故のおそれあり

- > テクニカルデータ の章で規定されている設置・使用条件は遵守しなければなりません。
- > マシンのプラグ を差し込む前に、接地する側の電源電圧と機銘板に記載されている仕様情報が対応していることを確認してください。

警告

テクニカルデータ
▷101ページ

電気接続、給水接続、排水接続等の、現場側での準備作業は、マシンの管理責任者が手配しなければなりません。一般的なものから国・地域で規定される法令に注意して認定設置者により設置を行ってください。WMF サービスエンジニアが担当できるのは、用意された接続部にコヒーマシを接続する作業だけです。WMF サービスエンジニアによる現場での据付作業は認められていないため、エンジニアは据付の実施については責任を負いかねます。

2 概要

2.1 コーヒーマシンの各部名称



供給可能表示



ヘッドライン

機能ライン

- 1 豆ホッパ° - (最大 2 つまで)、ロック可能
- 2 パ° ウタ° -ホッパ° - (オフ° ション)、ロック式 (例: チョコまたはトピ° ング°)
- 3 マニュアル投入口/洗浄剤投入口
- 4 飲料ホ° タンと設定用タッチパ° ネル
- 5 熱湯/ス° ル
- 6 コーヒーカス受け
- 7 スチ° ムジ° エットカップ° ウォーマー
- 8 取り外し可能なド° リップ° トレー (ド° リップ° グ° リット° 付き)
- 9 スチ° ム/ス° ル (オフ° ション)
- 10 ミルクウォーマー内蔵型コンピ° 供給口
- 11 操作パ° ネル
- 12 サイト° 照明
- 13 オン/オフホ° タン (操作パ° ネルは開)

供給可能表示

- 14 エコモード°
- 15 メニューパ° ット° (メインメニューを開く)
- 16 飲料ホ° タン
- 17 スチ° ムジ° エットパ° ット°
- 18 ホットリンスパ° ット°

パ° ネル上のパ° ット° やホ° タンは設定やマシンモデルにより異なります。
ここに画像表示する機能は例です。

ソフトウェア▷32° ページ

取扱説明書の記号とマーク



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度から重度の怪我を負うことがあります。



警告

安全上の注意事項
安全性についての章を参照
▷76ページ以降



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度の怪我を負うことがあります。



注意

操作についての安全上の注意事項
▷22ページ
加熱マーカーについての安全上の注意事項
▷71ページ
安全性についての章を参照
▷76ページ以降



感電



高温のフォーム



挟まれるおそれ



高温の表面



スリップの危険あり



物損についての注意事項

- ・ コーヒーマシンに対して
 - ・ 設置場所に対して
- > 必ず取扱説明書の指示に従ってください。

重要

保証の章に注意
▷100ページ以降
テニカ加熱マーカー
▷101ページ以降



注意事項/ヒント

- ・ 安全な取り扱いのための注意事項や、操作を容易にするためのヒントが記載されています。

注意事項

ヒント

用語集

用語	宣言
•	• 箇条書き、選択ボタン
*	* 各作業ステップ
斜字テキスト	コーヒーマシンの状態の説明および/または自動ステップの解説
カインルスコーヒー	カインフリーのコーヒー
コンビ供給口	標準仕様はダブル供給口ボタンでシングル供給口もお求め可能。
セルフサービスモード	セルフサービス
チョコ	ホットチョコレート
パウダー飲料	チョコやトッピングなど
バリスタ	コーヒーのスペシャリスト
プレス	抽出前の、挽いたコーヒーの自動プレス。
ミキサーシステム	パウダー飲料用ミキサーとホーシナーの総称
ミルクシステム	コンビ供給口、ミルクホース
メインコック	止水栓、アングル弁
リンス	中間的な洗浄
飲料供給	コーヒー、熱湯あるいはパウダー飲料の供給
硬度	°dKHで表示水の硬度は、飲料水に含まれるカルシウムの量を表します。
湿らし行程	香りを強く出すために、実際に抽出を行う前にコーヒーに少量の熱湯が注がれます。
追加物	コーヒー、ミルク、ミルクフォーム、チョコやトッピングといった飲料用レシピの構成要素。
挽いた豆のスライド	▷コーヒー加落とし、30°-ジ
容量	例えば：浄水フィルター処理能力（ℓ）

3 操作

3.1 操作についての安全上の注意事項



火傷の危険/火傷のおそれあり

- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触らないでください。
- > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。



⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > パウダーホッパー、コーヒー豆ホッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

3.2 その他書類

オプションによりシロップステーション

- シロップステーションの取扱説明書をよくお読みください。
- シロップステーションのクリーニング手引きをよくお読みください。

3.3 コーヒーマシンのスイッチを入れる

- ※ 操作パネルを上にも動かす
操作パネル裏の右側に、オン/オフボタンがあります。
- ※ オン/オフボタンを押す
コーヒーマシンのスイッチが入り、加熱がスタートします。
ホットリンスが自動的に始まります。
コーヒーマシンで飲料供給の準備が完了すると、パネルに供給可能と表示されます。

コーヒーマシンはタイマーを使ってオン/オフできます。



PINによるアクセス制限
▷PIN 権限
57レベル

タイマー-タイマーの入る時間を設定
▷タイマー-タイマー
59レベル

3.4 ミルクまたはミルクフォーム

3.4.1 ミルクを接続する

指などを挟むおそれ/怪我のおそれあり

- 回転中のギアに挟まれるおそれがあります。
 - > ミルク用ポンプ部は分解しないでください。ミルク用ポンプ部の分解はWMFサービスエンジニアにお任せください。

注意

WMF ミルククーラー搭載 (イージ-ミルク、ダイミックミルク)

- ※ ミルク容器をクーラーから外す
- ※ ミルク容器のフタを後ろにずらす
- ※ ミルクをミルク容器に注入
- ※ フタを再び容器の上にセット
- ※ ミルクホースのアダプターをミルク容器の蓋にある接続口に挿入
- ※ ミルク容器を慎重に押し戻す



ミルク容器

3.5 飲料供給

飲料ボタンを押すと、設定した飲料の供給が始まります。

- ボタン点灯 = 供給可能
- ボタン消灯 = 供給不可/ボタンが無効

- * コffee供給口の下に適切なサイズのカップを配置
- * 希望の飲料ボタンにタッチします。

飲料のキャンセル

- * タッチした飲料ボタンをもう一度タッチ

3.6 事前選択パッド (オプション)

マシンモデルによっては、カフェインフリー-カフェインフリーパッドなどの事前選択パッドをパッドで利用できます。これらのパッドは、飲料ボタンで飲料を決定する前に希望する事前選択を行うための事前選択パッドです。



ボタンのレイアウト
▷操作オプション
51ページ



例:
マニュアル投入パッドおよび
カフェインフリーパッド
▷35ページ

3.7 特別ボタン (オプション)

オプションで、飲料サイズ SとL用の特別ボタンをパネルで利用できます。これらのボタンは、飲料を選択する前に希望する飲料サイズを決定するための事前選択ボタンです。

M = 設定した飲料サイズ、プル選択なし

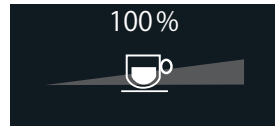
S = 約25% Mより少ない

L = 約25% Mより多い



3.8 自由なカップ容量の選択

オプションとして自由なカップ容量の選択が可能です。設定により、飲料選択後のカップ容量を選択後のモードで調整できます。



3.9 熱湯供給

- * 熱湯の供給口の下に適切なサイズのカップを配置
 - * 熱湯のボタンをタッチする
- 設定した供給オプションに応じて供給が始まります。



3.10 スチーム供給



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。



- > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触らないでください。
- > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 90 °C 以上の設定温度では、ミルクやミルクフォームが噴きこぼれるおそれがあります。
- > 容器の最大半分まで充填する。

⚠ 注意



- > ミルクを泡立てている時はミルクの量が減らないよう、過熱させないでください。

ヒント

3.10.1 オートスチーム(オプショナル)

オートスチーム オプショナルでミルクをヒートアップ またはフォームを作ります。

スチームキーで直接ミルクを設定したフォームの品質になるまで泡立っています。または、最大3種類のフォーム品質レベルを選択して呼び出すことができます。

選択可能なミルクフォームの質:

- 標準
- ファイン
- スーパーファイン

さらに、オートスチームにはもう1つミルクキーがあります。

ミルクの加熱または泡立て

* 希望するミルクの量を高さのある細いコップに入れます。

コップには最大で半分までミルクを入れるようにし、フォームするときにあふれないようにします。

* スチームノズルをミルクの底深くまで浸けます。

* 希望するオートスチームボタンを短く押す

オートスチームボタンの割り当てに従ってスチームが噴射されます。

スチーム供給は設定温度に達するかオートスチームボタンを再度押すと終了します。

* 湿した布でスチームノズルを拭く



スチームボタン



ボタンの割り当て
▷ 操作オプショナル
48° - ジ

レベルの変更
▷ 飲料
43° - ジ

3.10.2 イージースチーム(オプショナル)

イージースチームのスチーム供給で飲料を温められます。

ミルクはマニュアルで空気を取り入れることでフォームを作ることができます。

3.11 コーヒー 供給口の高さ調整

自動高さ調整

自動高さ調整では飲料によってカップ 高さが保存されます。飲料供給前にコーヒー 供給口が自動で最適な高さに調整されます。

調整範囲: 175 mm まで



カップ 高さ
▷47mm -ジ

3.12 コーヒー豆ホッパー -/パウダーホッパー - ロック可能

- ホッパーは、できるかぎり適時に補充してください。
- 製品の鮮度を維持するため、ホッパーには最大でも一日分しか入れないでください。



- ! 異物が混入するとコーヒーグラインダーが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。

重要

保証の章に注意
▷100mm -ジ 以降

3.13 マニュアル投入口ロック可能

マニュアル投入口はコーヒーマシンの下の中央にあります。

マニュアル投入口の用途

- クリーニングタブレットの投入口
- カフェインフリー等、異なる種類のコーヒーを淹れるとき
- 試しにコーヒーを淹れるとき



洗浄剤投入口



- 挽いたコーヒーやクリーニングタブレットは 80°C 以上で通知されてから投入してください。
- マニュアル投入口の場合は、挽いたコーヒーのみを使用してください。
- インスタントコーヒーパウダーは使用しないでください。
- 挽いたコーヒーが細かすぎる場合は、使用しないでください。

重要

保証の章に注意
 $\triangleright 100^{\circ}\text{C}$ - 5°C 以降

マニュアル投入口により挽いたコーヒーでコーヒーを淹れる (ホット - x3でも可能)

- * マニュアル投入口のフラップを開ける
- * 挽いたコーヒーを投入 (19 gまで)
- * マニュアル投入口のフラップを閉じる
- * 希望の飲料ボタンにタッチします。



マニュアル投入口

3.14 コーヒー受け

コーヒー受けには、使用済みの挽いたコーヒーが排出されます。

コーヒー受けには抽出約50回分のコーヒーが収まるようになっています。

コーヒー受けを空にする必要がある場合、パ° 祉上はその旨の通知が表示されます。

コーヒー受けが取り外されている間、飲料供給は不可能となります。

- * コルビ° 供給口を上げる
- * コーヒー受けを外す
- * コーヒー受けを空にして再びセット
- * プ° セスをパ° 祉上で確定する



- コーヒー受けを空にせずに設置すると、コーヒーがあふれ出ます。コーヒーマシンが汚れ、マシンの損傷につながるおそれがあります。
 - > コーヒー受けを設置するときは、常に空の状態を設置してください。
 - > コーヒー受けを上手く設置できないときは、ダ° 外にコーヒーが残っていないかチェックし、残っている場合には取り除いてください。



コーヒー受けのクリーニング
▷ 手動クリーニング°
78° -ジ°

重要

保証の章に注意
▷ 100° -ジ° 以降

3.15 コーヒー落とし(オ° ション)

コーヒーマシンにはコーヒー落としを取り付けることができます。このタイプ° では、コーヒー受けとコーヒーマシンの底に開口部が設けてあり、現場のマシンカウンター台の開口部に続いています。コーヒーは、マシンカウンター台下にある個別容器へと排出されます。

重要

挽いた豆のスライド° を毎日クリーニング°
▷ 手作業でクリーニング°
78° -ジ°

3.16 ドリップトレ

火傷のおそれ



- ドリップトレには高温の液体がたまっていることがあります。
- > ドリップトレは慎重に動かしてください。
- > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。

注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降
ドリップトレは毎日クリーニング
がスタート
▷71ページ以降



3.17 コーヒーマシンのスイッチを切る

衛生面に注意

- コーヒーマシンの中で有害な細菌が繁殖することがあります。
- > コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日のクリーニングを行ってください。

注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降
取扱説明書に従ってコーヒーマシンを
クリーニングしてください。
がスタート
▷71ページ以降

取扱説明書を確認

- 取扱説明書の指示に従わずにマシンを使用して発生した損傷については、保証は適用されません。

重要

保証の章に注意
▷100ページ以降

- * 操作パネルを上にかさねる
- 操作パネル裏の右側に、オン/オフボタンがあります。
- * オン/オフスイッチを短く押す(約1秒)
- コーヒーマシンのスイッチが切れます。
- * 主電源からプラグを抜く
- * 水道のメインコックを閉める



PINによるアクセス制限
▷PIN 権限
57ページ

4 ソフトウェア



- 飲料設定の際には、コーヒーマシンの操作についてのものと同様の安全上の注意事項に従ってください。
- > 操作についてのすべての安全上の注意事項に従ってください。

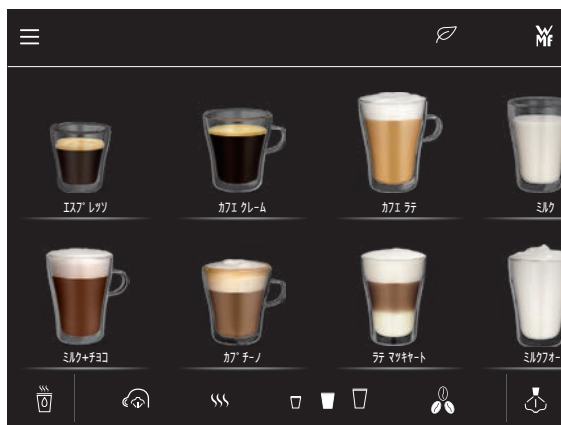
⚠ 注意

操作についての安全上の注意事項
▷22ページ

4.1 概要

供給可能

34° -ジ°



ボタンレイアウト
▷操作ボタン
51ページ

パネル上のボタンやボタンは設定やメニューにより異なります。

供給可能表示のボタン

34° -ジ°



スチームジェットカップウォーマー



リモート表示



飲料サイズ (S/M/L)



ホットリンス



スチームボタン



バリスタ (コーヒーの濃さ)



2.コーヒー種類 (デカフェ)



熱湯



ミルクシステム補充



カップサイズ調整



栄養成分情報



2.ミルク種類

メインメニューの機能

38[°] -^ジ 以降

カスタマーケア
38[°] -^ジ



飲料
40[°] -^ジ



操作オ[°]ション
48[°] -^ジ



インフォメーション
55[°] -^ジ



会計
56[°] -^ジ



PIN権限
57[°] -^ジ



タイマー
59[°] -^ジ



システム
62[°] -^ジ



言語
68[°] -^ジ



エコモード[°]
68[°] -^ジ



USB
69[°] -^ジ

メニュー制御パ[°]ット



メインメニュー/戻る



値/設定の確定



PIN入力



値/設定の削除



次へ/開始



飲料テスト



設定のリート[°]



後



設定の保存



キーボ[°]ード表示

パ[°]ネル上の通知



パ[°]ント/エラー通知



ミルク温度の表示 (オ[°]ション)

4.2 供給可能表示

パネルの供給可能表示は、コーヒーマシンのオプションや個々の設定によって異なります。

4.2.1 飲料ボタン

供給可能なすべての飲料ボタンで照明が点灯しています。

選択したキーレイアウトによってはパネル上を水平にワイプすることで他の飲料に進むことができます。



例: カプチーノボタン
ボタンのレイアウト
▷ 操作オプション
51° -ジ

4.2.2 機能ライン

熱湯ボタン

熱湯供給用熱湯ボタン。

設定によっては、熱湯ボタンを押した後、2種類の各飲料サイズで供給する熱湯を3つの異なる温度から選択可能です。

また、熱湯用の飲料ボタンが用意されている場合があります。



スチームジェットボタン

カップの温め。



スチームジェットボタン
49° -ジ

ホットリンスパッド

※ ホットリンスパッドをタッチする

コーヒー管路に熱湯が流れてリンスが始まります。これによって抽出装置が加温され、最適なコーヒー温度が保証されます。

長い間抽出しなかった後で、特にエスプレッソを供給する前の使用をお勧めします。



ホットリンスパッド有効/無効
▷操作オプション
49℃ -ジ

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。



栄養成分情報
▷操作オプション
49℃ -ジ

カップサイズ調整

次の飲料の飲料サイズ選択。



カップサイズの調整
▷操作オプション
50℃ -ジ

S/M/Lパッド

飲料サイズのプログラム選択。事前に飲正しく定する必要があります。



S/M/L
▷ソフトウェアソフトウェア
▷システム
67℃ -ジ

バリスタパッド - コーヒーの濃さ

	表示	コーヒーの濃さ
押さない	コーヒー豆2つ	ノーマル、設定通り
1回タッチ	コーヒー豆3つ	設定より15%濃い*
2回タッチ	コーヒー豆1つ	設定より15%薄め*

* 1回の抽出で使える挽いたコーヒーの最大量は19g
コーヒーの濃さを変更すると、その後1回の抽出分だけ濃さを変更されます。



バリスタパッド有効/無効
▷操作オプション
48℃ -ジ

ミルクシステム補充

自動ミルクシステム補充。



ミルクシステム補充
▷操作オプション
51℃ -ジ

2.ミルク種類

2つ目の種類のミルクを供給するオプションもあります。たとえば低脂肪ミルクやソイドリンクです。



2.ミルク種類
▷操作オプション
50℃ -ジ

スチームボタン

スチームボタンで熱いスチームが排出され、飲料を温められます。

スチームボタンではミルクのフォームを作ることができます。



4.2.3 スチーム イットカップ ウォーマー



火傷の危険/火傷のおそれあり



- スチーム イットカップ ウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。



- > 耐熱性のカップを使用してください。
- > スチーム供給前には、必ずカップを逆さまにしてカップウォーマーの上に置いてください。
- > 供給直後には周辺の表面に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触らないでください。
- > ドリップ グリッド やカップウォーマーなしの状態では、スチーム イット機能を絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
 ▷7ページ以降
 ドリップトレは毎日クリーニング
 がマター
 ▷71ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- スチーム イット機能はカップを温めるためのものですので、クリーニング用には使用しないでください。
- > カップを温めるときは、必ず洗浄して間もないカップをご使用ください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
 ▷7ページ以降


スチーム イットカップウォーマーのホットスチームを使用して最大2カップ同時に温められます。

* カップウォーマーの上に、カップを下向きにして配置する

* パッド  をタッチする

高温のスチームが、下からゆっくりとカップの中に流れ込みます。

スチームは、最大で設定した時間分だけ流れ込みます。

* スチーム イットパッド  をもう一度タッチ

直ちにスチームの流れが止まります。



スチーム イットパッド 有効/無効
 ▷操作ボタン
 49ページ

4.3 カスタマーケア



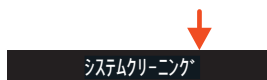
メニュー制御パッド[®]
 ▷概要
 32ℓ -ジ[®]

カスタマーケア
 ▷71ℓ -ジ[®] 以降

HACCPクリーニング[®] コンセプト
 ▷87ℓ -ジ[®] 以降

システムクリーニング[®]

システムクリーニング[®] の後にコーヒーマシンのスイッチを切る、切らないの選択が可能です。



システムクリーニング[®]
 ▷カスタマーケア
 74ℓ -ジ[®] 以降

ミキサー-リンス

ミキサー-リンスは中間的に行われるミキサー-のクリーニング[®]です。



ミキサー-リンス
 ▷カスタマーケア
 75ℓ -ジ[®]

ミルクシステムのクリーニング[®]


ミルクシステムクリーニング[®] は単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていない時に有効です。ミルクシステムクリーニング[®] はミルクシステムのクリーニング[®] を行います。



ミルクシステムのクリーニング[®]
 ▷カスタマーケア
 76ℓ -ジ[®]

ミルクシステムのリリース


クリーニング[®] 中、クリーニング[®] 完了後にミルク飲料をリリースするか聞かれます。「いいえ」を選択した場合、その結果、ミルクなしで飲料が注がれます。「ミルクシステムのリリース」でミルク飲料がまた供給できるようになります。



ミルクシステムのリリース

フォーマーのリリース

フォーマーのリリースは中間的に行われるミルクフォームのクリーニング[®]です。



フォーマーのリリース

フォーマーのリリース
▷ カスタマーケア
77° - ジ

クリーンロック

※ **クリーンロック** タッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチ[®] 祉のクリーニング[®] を行ってください。

最後にタッチ[®]してから15秒後に、タッチ[®] 祉が再び有効になります。



クリーンロック

操作パ[®] 祉クリーニング[®]
▷ カスタマーケア
78° - ジ

説明

使用可能なクリーニング[®] プログラム、ミキサーやクリーニング[®] 用コネ[®]供給口の脱着方法が画像で分かりやすく説明されます。




説明

ミルクシステム補充(ダ[®] イミックミルク)

この機能により、ミルク飲料供給のためにミルクシステムを充填します。


※ **ミルクシステム補充** タッチする



ミルクシステム補充

ドリフト[®]トレのクリーニング

コネ[®] 供給口は「ドリフト[®]トレのクリーニング」パ[®]ッドを押すと高さが上がります。その後、ドリフト[®]トレを清掃できます。



ドリフト[®]トレのクリーニング

ドリフト[®]トレのクリーニング[®]
▷ カスタマーケア
79° - ジ

4.4 飲料

概要



供給テスト

大半の飲料設定では、レシピを保存する前に新しい設定で飲料供給テストを行えるようになっています。



例: カフェボタン

- ※ 設定を希望通り変更
 - ※ 「供給テスト」パッドをタッチ
- 新しい設定値に従って飲料が供給されます。
- ※ 新しい設定値の飲料が満足いくものであれば、「保存」アイコンをタッチ
- レシピが保存されます。

レシピの保存

変更されたレシピが保存されます。



レシピをロードする

保存されているレシピが飲料ボタンにロードされます。



- ※ 飲料ボタンにタッチ
 - ※ 「レシピをロードする」パッドをタッチ
- サブメニューが開きます。
- ※ 希望するレシピをマークする
 - ※ 「レシピの保存」パッドをタッチ
- 飲料ボタンに新しく選択したレシピが割り当てられます。

カップ容量、複数倍の抽出と供給オプション

カップ容量

希望するカップ容量を設定します。レベルは適切に調節されます。

100%はこれまで保存されている値に相当します。

カップ容量 S/M/L

レベルがSとLサイズのために作成されます。Mは設定通りとなります。

標準値:

S=設定値より25%減量

L=設定値より25%増量

S/M/L機能

S/M/L機能はシステムメニューで有効にできます。基本的に、どの飲料でもデフォルトのカップ容量に対する差分を操作オプションで変更することができます。

その他の各飲料では、S/M/L量はカップ容量オプションから変更でき、

各サイズを有効/無効に個別設定することもできます。無効にすると、各飲料のサイズを選択できなくなります。



	S	M	L
	72	97	122
	73	98	123
	74	99	124
%	75	100	125
	76	101	126
	77	102	127
	78	103	128

☑ S - 有効 ☑ 有効 ☑ L - 有効

飲料ごとにS/M/Lを変更

▷カップ容量

S/M/Lを有効にして全飲料を変更

▷ソフトウェア

▷システム

67ページ

特別操作

▷操作

25ページ

複数抽出

飲料は設定の複数倍抽出されます。ボタンを1回押すだけで、設定量の最大12倍までの供給ができます。コーヒーやミルク入りミックス飲料、供給タイプ「供給」の熱湯で利用できます。

供給ボタン

- **スタートストップ**
供給は設定量に達するまで行われます。途中で供給を中止するには、ボタンをもう一度押してください。
- **スタートストップ フリーフロー**
ボタンを軽く押すとスタートストップ供給となります。ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給が開始されます。
- **フリーフロー**
ボタンを長押ししている間だけ、飲料やスチームが供給されます。
- **供給**
設定した量が供給されます。供給ボタンはミルク、ミルクフォーム、熱湯で表示されます。

供給ボタンでは、熱湯、ミルク、ミルクフォームの設定が可能です。

レシピの変更



メニュー制御パッド
▷概要
32ページ



現在のレシピ構成

レシピに含まれている追加オプションがここに表示されます。

作成手順は左から右に表示されます。上下に並んでいる追加オプションは同時に処理されます。希望のオプションを技術上の理由により選択できないときは、ソフトウェアによって通知が出されます。

工場出荷時設定で用意されている追加オプション

レシピに追加できる追加オプションはここに表示されます。

※ 希望する追加物を選び、レシピ作成でもう一度希望する位置を押す。

追加物がすぐに希望する位置に追加されます。

追加オプションの削除

マークのついた追加オプションを現在のレシピ構成から削除します。



追加オプションの変更

※ 追加オプションをマークし、「追加オプションの変更」をタッチ
「追加オプションの変更」のメニューが開きます。
選択した追加オプションの設定オプションが表示されます。
保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエンジニアによって保存された値



工場出荷時の設定値

コーヒー粉の量

単位:グラム(g)



水量/ミルクの量

単位:ミリリットル(ml)



ダイミックスミルクミルクフォームのクオリティレベル

ダイミックスミルク仕様のコーヒーマシンでは、各飲料に合わせてミルクフォームの仕上がりを調節できるようになっています。

1つの飲料に異なる仕上がりのミルクフォームを組み合わせることができます。

- しっかり** しっかりとしたミルクフォーム。ブライツェグのกาแฟやミルクフォームの見た目を重視する飲料で、バランスの取れたミルクの風味を出したいときに最適です。
- シルキー** ミルクの細かいミルクフォーム。バランスの取れたミルクの風味を際立たせたいกาแฟに適しています。理想的なコーヒーとミルクの組み合わせ。
- クリーミー** つやのあるミルクフォーム。ミルクの風味のバランスが取れており、コーヒーとミルクの組み合わせが良好なミルク飲料に最適です。
- ふんわり** 空気をたっぷり含んだふわふわと軽いミルクフォーム。どちらかというと粗い感じの泡でバランスの取れたミルクの風味が特徴です。

コーヒーの品質

コーヒーの抽出は、品質レベルによって変化します。品質レベルを高くするほど、抽出されるコーヒーの香りと味が強まります。



品質レベル

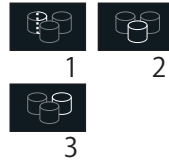
- 1 プリ後、挽いたコーヒーが水を含むようにするためのスプレースが与えられます。
- 2 プリ直後から抽出が始まります。
- 3 プリ後、湿らし行程に入ります。
- 4 プリと湿らし行程後、ウェットプリをします。
- 5 品質4と同様ですが、さらに強くウェットプリをします。
- 6 品質5と同様ですが、さらに強く長めにウェットプリをします。
- 7 品質6と同様ですが、さらに強く長めにウェットプリをします。

注意事項

抽出用熱湯がわずかな状態で非常に細かいコーヒー粉を使用すると、品質レベルが高い場合は抽出用熱湯エラーが発生することがあります。

コーヒーグライндаー[®]を選択

コーヒー粉の挽く分量全部は10に相当します。全分量は各種グライндаー[®]を合わせることができます。そのため、様々な個別のレシ[®]が可能です。



テキスト、画像、カップ[®]高さ



メニュー制御パッド[®]
▷概要
32ページ

テキストと画像

ここで飲料の名称と飲料ボタンの画像を設定します。キーボードパッド[®]にタッチしてキーボードを有効にします。

個別の飲料画像を読み込む
▷USB
69ページ

備考

飲料についてのメモはここに保存できます。

カップ 高さ

自動供給を使用。
飲料のカップ 高さはここで設定します。右側の
カップ アイコンにはカップ 高さが割り当てられています。こ
の高さはアイコンを短く押すと保存されます。

サイズ「S」および「L」の飲料は、飲
料ホッタン選択前にサイズを選択する
必要があります。

ホッタンの入れ替え

2つの飲料ホッタンが入れ替わります。

- * 飲料ホッタンにタッチ
- * 「ホッタンの入れ替え」パッドをタッチ
- * 入れ替える飲料ホッタンにタッチ



4.5 操作オプション

操作に関する部分

セルフサービスモード (セルフサービス)

セルフサービスモードのために、いくつかの機能を無効にすることができます。

無効にしておくと、この機能と該当するパッドが画面に表示されません。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

セルフサービスモードを有効にすると、直ちに以下のように設定されます。

- バリスタパッド: 無効
- ホットリンスパッド: 無効
- 栄養成分情報: 有効
- メニューパッド: 無効
- スチームジェット: 無効
- エラー表示: 記号
- カップサイズの調整: 無効
- 2.ミルク種類: 無効
- 言語プレ選択: 有効
- ミルクシステム補充: 有効
- 飲料プレレクション: 無効
- 飲料のキャンセル: 無効

バリスタパッド

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。



操作に関する部分

- バリスタパッド
48° -ジ
- ホットリンスパッド
49° -ジ
- 栄養成分情報
49° -ジ
- メニューパッド
49° -ジ
- スチームジェット
49° -ジ
- エラー表示
50° -ジ
- カップサイズの調整
50° -ジ
- 2.ミルク種類
50° -ジ
- ミルク投入口
50° -ジ
- 言語プレ選択
51° -ジ
- ミルクシステム補充
51° -ジ
- 飲料プレレクション
53° -ジ
- 飲料のキャンセル
53° -ジ

ホットリンスパッド

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

栄養成分情報を更新する
▷システム
▷栄養成分情報
68ページ

メニューパッド

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 メニューパッドにタッチすると、メニューパッドが直ちに反応します。

無効 何もないところを二回押すとメインメニューに戻ります。

スチームジェット

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

カラー表示

カラーはパネルのヘッダーにおいて、様々な色で通知されます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 カラーはテキストでパネル上に表示されます。

カップサイズ調整

自由なカップ容量の選択を、操作オプションで有効にできます。

カップ容量は飲料選択の前に、使用するカップサイズに適合させることができます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

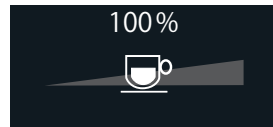
レギュラー上のカップを右にずらすと、カップ容量が増加し、左にずらすとカップ容量が減少します。

カップ容量はパーセント単位で表示されます。

レギュラーは中央 設定どおり100%

レギュラーは左端 50%減少

レギュラーは右端 50%増加



2. ミルク種類 (オプション)

ここでは2つ目の種類のミルクを有効化できます。

2つ目の種類のミルクを供給するオプションもあります。たとえば低脂肪ミルクやソイドリンクです。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

マニュアル投入口

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

言語別選択

飲料設定について、言語と国旗の別選択を可能にするかどうか、ここで設定します。「言語別選択」はここで有効にするか、キーレイアウト「SB+フラグ」の選択により有効化可能です。

ホータンレイアウト「SB+フラグ」
▷ホータンレイアウト
51ページ

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

ミルクシステム補充

この機能はミルクシステムを満タにします。ミルクシステム補充はここで有効にできます。

ミルクシステム補充
▷カスターマーク
39ページ


選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

ホータンのレイアウト

種々の標準ホータンレイアウトがここに保存されており、選択できるようになっています。


ホータンのレイアウト

ホットセレクション

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

有効 飲料の選択後、コーヒーのタイプと飲料サイズを選択できます。

コーヒーのタイプの名称とサイズは変更できます。
(コーヒーのタイプとS/M/L)。

表示やオプションは各種装備により異なります。

- サイズ 1、2、3
- ホットショナー 1、2、3、4
- ミルクの種類 1、2
- コールド飲料
- シロップ 1、2、3、4(オプション)

セルフサービスモードのために、いくつかの機能を無効にすることができます。

無効にしておく、機能と該当するボタンが画面に表示されません。

カフェインフリー

選択オプション: 有効 無効


標準値: 有効 無効

デカフェ係数

ここでデカフェ係数を入力します。

デカフェ(カフェインフリーのコーヒー)用の挽いたコーヒー量は、レシピに設定されている挽いたコーヒー量に対するパーセント値で設定します。

この設定はあらかじめ「デカフェ」を設定すると、全てのコーヒー飲料に対して有効となります。



ホットセレクション



カフェインフリー


デカフェ係数を15%にした場合、例えばカフェインフリーの作成ではデカフェ機能により、挽いたコーヒーを15%増量して抽出されます。

飲料フ レレクション

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 事前に選択された飲料はさらに押さなくても供給されます。
ヘッドラインには「飲料フ レ選択有効」と表示されます。


飲料フ レレクション

飲料のキャンセル

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 飲料ボタンを再度押すと、飲料供給を中断できます。

ミルクフォームの選択

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

ミルクフォーム選択はオートフォームオプションでのみ可能です。

□

メーカー□

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 メーカー□ は準備完了パネルの右上に表示されます。

お客様□

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 オプションが「有効」に設定されており顧客□が読み込まれている場合、顧客□は運転準備完了時にヘッドライン中央に表示されます。自動販売機と接続されている場合、顧客□が左に表示されます。この場合、□を両方表示することはできません。

お客様の□をロード

顧客□入りの USB スティックを挿し込みます。顧客□を読み込みます。

顧客□ (大)

□は最大 80 ピクセルまで許容されます。それより大きい□は自動でこの大きさにサイズ変更されます。

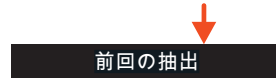
4.6 インフォメーション

インフォメーションメニューの選択オプションは以下の通りです。



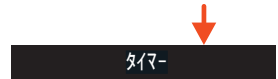
前回の抽出

前回の抽出に関するインフォメーション。



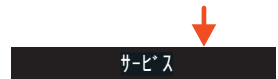
タイマー

1週間のタイマー設定が呼び出されます。ここにはすべてのスイッチオン・オフ時刻が表示されます。



サービス

WMF サービスの連絡先。
コーヒーマシンのシリアルナンバー。



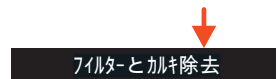
カスタマーケア

コーヒーマシンのプログラムから行ったクリーニングとカスタマーケアの記録が表示されます。



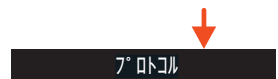
浄水フィルターとカルキ除去

浄水フィルターの残り容量と次回カルキ抜きタイミングのインフォメーションが表示されます。



プロトコル

コーヒーマシン操作中やクリーニング中のイベントとエラーのプロトコル。



4.7 会計



カウンター

供給されたそれぞれの飲料のカウンターと合計飲料数が表示されます。

プログラムはUSB出力によって読みだすことができます。

会計				
カウンター				
飲料	1	2	3	4
ダブルエスプレッソ M...	2	2	2	2
エスプレッソ	1	1	1	1


標準設定

カウンター-1=1日のカウンター

カウンター-2=1週間のカウンター

カウンター-3=1ヶ月のカウンター

カウンター-4=1年のカウンター

 それぞれのカウンターはリセット可能です。

ヒント

自動販売機

自動販売機として使用する際の取扱説明書を参照してください。

外部会計

ウェア-会計取扱説明書を参照してください。

無料設定

割引設定はカ°ションの会計機器と一緒に利用できません。



無料設定

すべて無料

選択カ°ション: 有効 無効

標準値: 無効

飲料無料

選択カ°ション: 有効 無効

標準値: 無効

ディスプレイ表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここにテキストを表示できます。(例:「割引」)。入力されたテキストはヘッドラインに表示されます。

飲料ボタン表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここに飲料ボタン用テキストを表示できます。

4.8 PIN権限

下記のエリアではPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計




PINには序列が設けられています。

例えば、設定PINはクリーニングPINも兼ねますが、会計PINとしては無効です。

PINを割り当てないエリアは、PIN入力なしでアクセス可能
です。PINを割り当てたエリアには、PIN入力なしでは
アクセスできません。

クリーニング PIN









有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスターケア



設定PIN










有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスターケア  タイマー
 飲料  システム
 操作オプション  言語
 会計（「削除」なし）  USB



会計PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

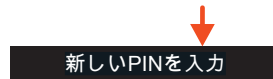
 カスターケア  PIN
 飲料  タイマー
 操作オプション  システム
 会計（「削除」あり）  言語
 USB



会計 PIN を使用して他の PIN
番号を両方変更できます。
会計 PIN を忘れた場合、サービス
担当者によってのみ PIN をリセット
可能です。

新しいPINを入力

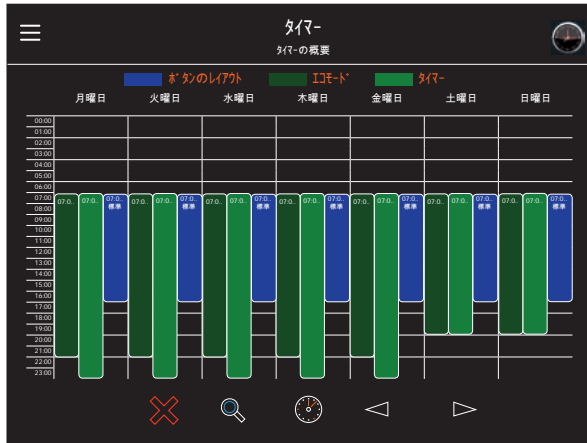
アクセス許可 PIN が割り当てられたら、ここに PIN 番
号を入力して新しい PIN を発行します。



4.9 タイマー

タイマー予定表とタイマーの設定

すべてのお料理時刻の概要



本日の詳細

日間・週間予定表を切り替えます。日間予定表には当日のデータが表示されます。



タイマー設定

- 設定したい日(複数可)を選択します。
- スイッチを入れる時刻と切る時刻を設定します。



タイマー設定は選択した全ての日に適用されます。確定後は設定された切り替え時間による週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの週間予定表の中で任意に変更できます。

タイマー-ステータス


タイマー-ステータスを表示します。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 タイマーの切り替え時間が有効になっています。

無効 タイマーの切り替え時間は作動しません。



タイマー-ステータス

ボタンの概要

ここではボタンの概要用の全タイマー切替時間の概要が表示されます。

設定は一覧で直接変更可能です。

概要図とアイコンの説明▷タイマー-概要、59ページ


ボタンの概要


ボタンの表示時間は最短30分間です

ボタンの状態

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 ボタンをタイマーによって自動的に割り当てることができます。


ボタンの状態

21時から6時までセルフサービスなど。

Ecoモードの概要

ここではEcoモード用の全タイマー切替時間の概要が表示されます。
設定は一覧で直接変更可能です。
概要図とアイコンの説明▷タイマー概要、59ページ



Ecoモードの概要

Ecoモード状態

Ecoモード状態の詳細情報

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効



Ecoモード状態

時刻/日付

ここでは現在の日付と時刻を設定します。



時刻/日付

4.10 システム

クーラー

ミルクの保管温度

ミルク供給温度はここで入力します。
カップ・アンド・クールの使用時、例は 8 °C 以下。

お知らせ表示

ミルクが空になった時に通知を起すかをここで設定します。空になった時の通知は、飲料ロックと関連づけられます。これは、特にサービスセルフサービス運転の際に必要で、これにより支払いを終えた飲料は満タンに供給されます。

温度センサ

ミルク温度の計測

プログラムディスプレイ

選択オプション: ライン、円ガラス、お

標準値: ライン



クーラー



温度監視付
カップ・アンド・クールオプションで可能です。



プログラムディスプレイ

品質チェック(ダ 伊ミックミルク)

ミルクシステムでのミルク温度変更、ミルクフォーム量変更、ミルクフォーム品質変更が外的に影響することがあります。

「品質チェック」メニューで基本設定を再度行えます。

- * 青いクリーニング ホッパ[®] に冷水を満たす
- * ミルクフォームをつなげる
- * 容量が 500 ml の計量カップ[®] を供給口に置く
- * キャラ[®] レーションを開始する
- * 500 ml (+/- 20 ml) の計量カップ[®] がいっぱいになったら、キャラ[®] レーションは停止する



品質チェック

ディスプレイと照明

照明

点灯色はここで設定します。


カラーサークルの三角形で希望の色を設定してください。

RGB数値による色の設定も可能です。

その他の選択オプション:

- 色変化 ゆっくり
- 色変化 標準
- 色変化 速く
- 切

ただちに現在の設定が表示されます。



ディスプレイと照明



供給可能の場合の照明

- 側板 標準色

イベントの表示 (通知)

選択オプション: 有効 無効

例えば「コヒー豆を空にする」通知です。

標準値: 無効

有効 メッセージ表示中、照明の調整ができます。

メッセージ (イベント)の照明

- イベントカー側板

パネルの照度

パネルの照度はここで設定します。

ディスプレイ照度は自動的に減少

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 照度減少が「有効」になっていると、飲料供給から5分後にパネル照度が自動的に減少します。

パネルの照度が暗くなっている状態でパネルに一度タッチすると、再び選択された照度に戻ります。その後もう一度飲料供給ボタンにタッチすると、その飲料の供給が始まります。

タッチキャリブレーション

タッチパネルのキャリブレーションを新たに行います。

パネルの背景

タッチパネルのカーデザインを設定できます。

- メインメッセージのカー
- その他のパネルの色

飲料:文字 + 色

ここで、文字サイズ[°]と色の変更を設定できます。

選択[°]オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

浄水フィルター

選択[°]オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルターの容量と水の硬度の入力が必要です。

硬度の計測

測定した水の硬度を°dKH単位で入力します。

炭酸硬度テストキットはアクセサリと共に送られます。



水の硬度を不適切に設定してコーヒーマシンを運転すると、多くの加圧が発生し、バルブの密閉性が失われるおそれがあります。これにより損害が生じても保証は適用されません。

水硬度測定

※ 飲料水の水の硬度は、水道事業者に照会するか、アクセサリにあるWMF 炭酸硬度テスト(説明書付き)を使用して検出する



浄水フィルター

注意事項

水の硬度が0～5°dKHの場合、浄水フィルターは不要です。

水道水接続があるコーヒーマシンの場合、AquaBasic 浄水フィルターの使用を推奨します。

注意事項

総硬度の計測

計測した総硬度はここに入力されます。

フィルターの容量

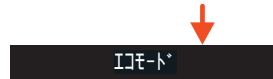
フィルター範囲(単位: リットル) はここで入力します。

エコモード

ここではエコモードを有効にできます。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効



▷エコモード
68° -ジ

スイッチオフ

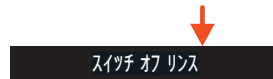
オフオプション: なし 30 min/60 min/90 min/120 min/
150 min/180 min 不可。

標準値: なし

スイッチオフリンス

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効



有効 最後にクリーニングを実行してからミルク飲料を供給している場合には、コーヒーマシンのスイッチを切る際に、スイッチオフリンスを実行しなければなりません。

挽き目設定


挽き目はディスプレイ上で設定します。

小さい値 -> 細挽き

高い値 -> 粗挽き

段階ごとに最大で半挽きが設定できます。各設定を終えたら豆挽きを行います。

教育を受けた専門社員およびサービスにのみ。




挽き目設定

抽出圧表示

ここでは抽出圧表示を有効化できます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効 無効



抽出圧表示

S/M/L機能

スモール

新たに有効にするサイズの飲料レベルのデフォルト変更係数。

標準値: 75%

ラージ

新たに有効にするサイズの飲料レベルのデフォルト変更係数。

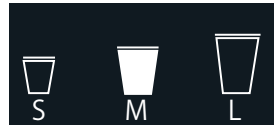
標準値: 125%

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効 無効



S/M/L



カップ容量 S/M/L
▷ソフトウェア
▷飲料
41ℓ - ジ

ヒント

飲料サイズ (S/M/L) はレベルで定義付けし、飲料ボタンで直接利用可能です。

栄養成分情報

ここでは「ライナー」、ホーショナー、ミルク、ミルクフォーム毎に栄養成分値および材料に関する詳細情報が記録されます。
概要が確認できます。

↓
栄養成分情報

4.11 言語

パネル上で使用する言語を設定します。
使用できる言語が英語で表示されます。



4.12 コーフト

「コーフト」が「有効」になっているとき、最終の飲料供給終了から10分後にスチームボイラーの温度が下がります。飲料ボタンは点灯したままです。
温度が下がっている状態でミルク入り飲料を供給するときは、コーヒーマシン加熱のために15秒間ほど必要になります。
飲料作成は加熱の後に始まります。



▷「コーフト」
66°C - 7°C

コーフト

選択オプション: ・ オン ・ オフ ・ タイマー

標準値: オン

ここでは「コーフト」を有効にできます。



モード表示

供給可能表示では、ヘッド - にモードのアイコンが表示されます。

2つのステータスがあります。

モード「有効」

コーヒーマシンは現在温度低下段階にあります。



モード「レイ」

モードは待機時間に応じて制御され、最後に飲料供給してから10分後に有効になります。



クイックスタート

モード設定が「有効」である場合には、モードのアイコンが供給可能表示に表示されます。



アイコンにタッチする場合、モードがすぐに有効になります。

アイコンが「有効」に切り替わります。

4.13 USB

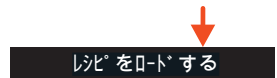
USB接続口からはデータの交換が可能です。

USB接続口は操作パネル裏側の左上の、カバーの背後にあります。



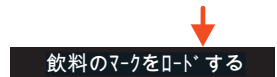
レシポをロードする

保存されたレシポはここからロードします。



飲料のマークをロードする

USBスティックから飲料の写真またはマークを読み込みます。



レシピの保存

レシピをコーヒーマシンからUSBに転送します。



カウンターのエクスポーゼ

カウンターをUSBへ転送してください。



HACCPエクスポーゼ

実行されたクリーニングはプロトコルに記録され、ここにHACCP実施の証明としてエクスポーゼされます。



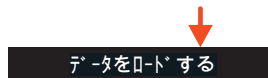
データのリバックアップ

マシンのデータ、飲料のデータ等の設定データはここで保存します。



データをロートする

マシンのデータ、飲料のデータ等の保存されているデータはここでロートします。
(PINで保護可能)



言語をロートする

利用できる場合には、他のパシ言語をUSBスティックからコーヒーマシンにロートします。



ファームウェアの更新

サービスエンジニア専用。



5 かたマ-ケア

5.1 安全上の注意事項 かたマ-ケア

コーヒーマシンが正常に作動し、コーヒーの品質をいつでも最適なものにするためには、定期的なクリーニング[®]は不可欠となります。



健康被害のおそれ/衛生面

- ミルクは非常に傷みやすい食品です。ミルクシステムの中で細菌が繁殖して健康に悪影響を与える恐れがあります。
- > ミルクシステムは毎日クリーニング[®]してください。
- > ミルクホースは定期的に交換してください。
- > ミキサーホースは定期的に交換します。
- > 全ての衛生面の注意事項に従ってください。
- > HACCPクリーニング[®]コンセプトに従ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- 使用停止中のコーヒーマシンの中で細菌が繁殖する恐れがあります。
- > 数日間運転を停止する場合、運転停止前と運転再開時にすべてのクリーニング[®]を行ってください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降



健康被害のおそれ/衛生面

- すべての洗剤はｸﾘｰﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ用に最適に調整されています。
- > WMF ｸﾘｰﾝｸﾞ 剤のみを使用してください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- ｸﾘｰﾝｸﾞ 中にｺﾙﾄﾞ 供給口と熱湯の供給口から高温のｸﾘｰﾝｸﾞ 液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷したりするおそれがあります。
- > ｸﾘｰﾝｸﾞ 中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > ｸﾘｰﾝｸﾞ の前には、必ず「ｸﾘｰﾝﾛｯｸ」でﾀｯﾁﾊﾟﾆｰﾙをロックしてください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



ﾀﾞｲﾈｯﾁｸﾞ ﻣﯩﾙｸ

ﾐﾙｸの割合を含んで飲料が 119 分全然供給されない場合、自動ﾐﾙｸｼｽﾃﾑﾘﾝｽを起動して新しいﾐﾙｸを補充します。

注意事項



注意事項

- 次にｺｰﾋｰﾏｼﾝの電源を入れる際、ﾐﾙｸが再充填されこれを以てｸﾘｰﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑが完了します。

注意事項

5.2 クリーニング頻度の概要

カスタマーケア				
日毎	毎週	定期的	自動	
クリーニングプログラム				
X				システムクリーニング® (イーゼー-ミルク/タ イナミックミルク)
X				ミキサーリンス
X				ミルクシステムのクリーニング®
X			X	フオーマーのリンス
クリーニング (手作業)				
X				操作パネルをクリーニング® (クリーンロック)
X				コーヒーカス受けの清掃
X				ドリップトレのクリーニング®
X				外装のクリーニング®
	X			ミルクシステムをマニュアルでクリーニング® (イーゼー-ミルク)
	X			ミルクシステムをマニュアルでクリーニング® (タ イナミックミルク)
(X)	X			ミキサーのクリーニング® *
X	X			スチームノズルのクリーニング®
		X		コーヒー豆ホッパー®のクリーニング®
		X		パウダーホッパー®のクリーニング® *



クリーニングプログラム
▷74°-ジ以降

▷78°-ジ

▷78°-ジ

▷79°-ジ

▷79°-ジ

▷80°-ジ

▷81°-ジ

▷81°-ジ

▷82°-ジ

▷84°-ジ

▷85°-ジ

毎日 = 最低毎日1回、必要に応じて随時

毎週 = 毎週1回クリーニング

定期的 = 必要に応じて定期的に実施

自動 = 自動プログラム

(X) = 汚れがひどい場合は毎日

* = オプション (装備により異なる)

5.3 クリーニングプログラム

5.3.1 システムクリーニング

システムクリーニングは様々なステップを用意する自動クリーニングプログラムです。使用用途に応じてコーヒー/ミルク/パウダーシステムをクリーニングします。ここではミルクシステム、ミキサーリンスが行われ、コーヒーとミルクシステム用の2種類のWMFクリーニングタブレットが使われます。

動画による説明

▷コーヒーマシン

▷メインメニュー

▷カスタマーケア

▷説明

▷シロップステーションのクリーニング手引き



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中にコップ供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷したりするおそれがあります。
 - > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
 - > 洗剤は絶対に飲まないでください。

注意

安全性についての章を参照

▷7ページ以降



クリーニングプログラムはパネルによってシステムクリーニングの各ステップをガイドします。表示される通知に従ってください。

重要

システムクリーニング、イージ-ミルク/タ イミックミルク



**健康被害のおそれ/
火傷のおそれあり**



- クリーニング中、熱いクリーニング液がホッパ-内に注がれます。
- > クリーニングホッパ-はクリーニング後に注意して中身を空にします。



クリーニングホッパ-は熱いままクーラーに置いてはなりません。クーラーが破損する恐れがあります。

イージ-ミルク/タ イミックミルク仕様のコーヒーマシンのシステムクリーニングでは、クリーニングに青色の特別なクリーニング容器が必要です。

開始

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **システムクリーニング** タッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

5.3.2 ミキサ-リンス



**健康被害のおそれ/
火傷のおそれあり**

- リンス中はコンヒ-供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミキサ-のリンスは単独で開始できます。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミキサ-リンス** タッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

重要

保証の章に注意
▷100ページの以降



注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

動画による説明
▷コーヒーマシン
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明

5.3.3 ミルクシステムのクリーニング



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- リン中はコップ供給口から熱湯が出ます。
- > リン中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミルクシステムクリーニングは単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていなかった時に有効です。

ミルクシステムクリーニングはミルクシステムのクリーニングを行います。

イーゼーミルク/タ イミックミルクを搭載したコーヒーマシンでのミルクシステムクリーニングでは、クリーニングにブルの特殊なクリーニングコンテナが必要です。

専用のクリーニングタブレットを使用してください。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミルクシステムのクリーニング** タッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

動画による説明

- ▷コーヒーマシン
- ▷メインメニュー
- ▷カスタマーケア
- ▷説明



5.3.4 フォーマーのリス



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- リス中はコヒ[®] 供給口から熱湯が出ます。
- > リス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

イージ-ミルク搭載コーヒーマシンには必要に応じて開始できるフォーマーリスがあります。また、ミルクフォーマーのリスも自動的に行うことができます。最後のミルク飲料供給が終わって3分経つと、自動で開始します。自動的にミルクフォーマーのリスが始まる前に、ブザー音が鳴ります。ミルクフォーマーのリスが有効になっているときは、飲料の入ったカップをコヒ[®] 供給口の下に置かないでください。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **フォーマーのリス** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

動画による説明

- ▷コーヒーマシン
- ▷メインメニュー
- ▷カスタマーケア
- ▷説明

5.3.5 フォーマーのリス(ダイトミックミルク)

ダイトミックミルク仕様のコーヒーマシンでは、ミルクフォーマーの自動リスは2時間ごとに行われます。

5.4 クリーニング (手作業)

WMFカスタマーケアプログラム用の注文番号
▷ アクセサリーとスプレッドシート
105ページ

5.4.1 操作パネルをクリーニング (クリーンロック)

* **クリーンロック** タッチする

15秒間のカウントダウンが始まります。

この間にタッチパネルのクリーニングを行ってください。

最後にタッチしてから15秒後に、タッチパネルが再び有効になります。



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
 - > クリーニングの前には、必ず「クリーンロック」でタッチパネルをロックしてください。

注意

安全性についての章を参照
▷ 7ページ以降



- クリーニング中にパネル表面に傷をつけるおそれがあります。
 - > 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
 - > 刺激の強い洗剤は使わないでください。
 - > クリーニングには柔らかい布を使用してください。

重要

保証の章に注意
▷ 100ページ以降

5.4.2 コーヒー受けのクリーニング (挽いた豆のスライド / オプション)

* コーヒー受けを空にし、流水で洗浄

* 湿した布でクリーニングする

* コーヒー受けは乾燥させてから再び設置する



- > 絶対に力を入れないでください! 破損のおそれがあります。

重要

保証の章に注意
▷ 100ページ以降

5.4.3 ドリップトレのクリーニング



火傷のおそれ



- ドリップトレには高温の液体がたまっていることがあります。
- クリーニング後などでドリップトレを正しくはめ込んでいない場合、高温の液体で火傷を負うおそれがあります。
 - > ドリップトレは慎重に動かしてください。
 - > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。
 - > ドリップトレが正しく取り付けられているか、必ず確認してください。

注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

- * ドリップトレの前部外側を軽く持ち上げてドリップトレを外す
- * ドリップトレを入念にクリーニング
- * ドリップトレを最後に清潔な飲料水でリンスする
- * ドリップトレを乾かし、元の位置に装着



5.4.4 外装のクリーニング



- クリーニング中にパッド表面に傷をつけるおそれがあります。
 - > 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
 - > 刺激の強い洗剤は使わないでください。
 - > クリーニングには柔らかい布を使用してください。

重要

保証の章に注意
▷100ページ以降

金属表面(マット加工)の手入れには、WMF Purargan®クリーナーの使用をお奨めします。

5.4.5 ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージ - ミルク)



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
 - > クリーニングの前には必ずコーヒーマシンのスイッチを切ってください。
 - > 主電源からプラグを抜く。



健康被害のおそれ

- WMFミルクシステムの洗剤が目に入ると、目に深刻な傷を負う恐れがあります。
 - > WMFミルクシステムの洗剤が絶対に人や動物の目に入らないようにしてください。

- * コンビ® 供給口背後のレバーを引く
 - * 解除したコンビ® 供給口を取り出す
 - * ミルクホースとミキサーホース⁽¹⁾を緩める
 - * 専用のクリーニングタブレットを微温の飲料水 (0.5L) と混ぜる
 - * コンビ® 供給口を分解
 - * コンビ® 供給口の部品をクリーニング液の中に入れる (3部品)
- すべての部品がクリーニング液の中に完全に浸っていないとなりません。
- * 5時間経ったら、ブラシですべての部品を入念にクリーニングする
 - * コンビ® 供給口のすべての部品を清潔な飲料水で入念にリンスする
 - * ミルクホースとミキサーホース⁽¹⁾をよくすすぐ
 - * ミルクホースとミキサーホース⁽¹⁾を差し込む
 - * コンビ® 供給口を組み立てる
 - * コンビ® 供給口を装着
- ⁽¹⁾ミキサーホースはミキサーを搭載したコーヒーマシンでのみ使用可能です。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降
動画による説明
▷コーヒーマシン
▷メインメニュー ▷カスタマーケア
▷説明

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



5.4.6 コンビ® 供給口の手動 クリーニング (タ イミックミルク)

定期的にコンビ® 供給口の汚れを軽く湿らせた布で拭き取り、供給口を適切なブラシでクリーニング® してください。



タイミックミルク仕様のコーヒーマシンのミルクフォーマーは取り外しできません。

重要

保証の章に注意
▷100° -ジ° 以降

5.4.7 ミキサ®のクリーニング®

使用するパ° ウダ® -に応じて、クリーニング® 回数を増やしてください。



火傷のおそれ

- ミキサ®-ホスがしっかりと差し込まれていないと、熱湯や高温のパ° ウダ® -飲料が不意に流れ出ることがあります。
▷ ミキサ®-ホスはしっかりと差し込んでください。

注意

安全性についての章を参照
▷7° ページ° 以降

- * 操作パ° 祉を上に乗かす
- * コンビ® 供給口のミキサ®-ホスを引き、グリップ® を持ってミキサ®-カップ® を上にあげます。

これでミキサ®の羽根車が見えます。

毎日

- * ミキサ®-カップ® を取り外す
- * ミキサ®-カップ® を4つの部品に分解する
- * 部品は流水で入念に洗浄する

必要に応じて(毎週)

- * 5 ml のWMF特殊洗剤または専用クリーニング® タブレット1個を0.5リットルの温かい飲料水と混ぜる
- * 4つの部品はすべて少なくとも4時間はクリーニング® 液に浸す
- * 4時間経過後、再度流水で入念にすすぐ

説明
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明



※ ハ° ヲタ° -ホッパ° -を外し、ミキサ° カップ° の投入口をクロスまたはブラシでクリーニングする

※ 部品を完全に乾かす

! 組み立てにあたっては、全ての開口部が必ず同じ方向を向くようにしてください。

- ※ ミキサ° カップ° にミキサ° ホースを差し込む
- ※ しっかりとロックされるように、ミキサ° カップ° を再度設置する
- ※ ミキサ° ホースをコンビ° 供給口に挿入



5.4.8 スチームノズルのクリーニング

! 火傷の危険/火傷のおそれあり

- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触らないでください。
- > 供給中は必ず適切な飲料容器を下に配置します。

⚠ 注意

説明
▷メインメニュー
▷カスターゲア
▷説明

毎日

- * 専用のクリーニング タブレットを微温の飲料水 (0.5L) と混ぜる
- * スチームノズルを洗浄液に浸けて、スチームまたは自動スチームキを短くタップします。

浸置時間30分

- * ブラシでクリーニング
- * 水で丁寧にすすぎます
- * スチームノズルをタッチする

スチームにより、スチームノズルの穴から分解された残留ミルクが取り除かれ、残っている洗剤が除去されます。



毎週

- * スチームノズルを回して外す
- * スチームノズルを最低5時間は洗浄液に浸けます
- * ブラシでクリーニング
- * 浄水で丁寧にすすぎ清潔ます
- * スチームノズルをオートスチーム供給口にねじ締めます
- * スチームノズルを清潔な水が入った容器に入れる
- * オートスチームキを短くタップします
- * 湿した布でスチームノズルを拭く



5.4.9 コーヒー豆ホッパーのクリーニング

コーヒー豆ホッパーは必要に応じて定期的にクリーニングしてください。推奨: 毎月1回。



怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグライダ-に巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

⚠ 注意



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- コーヒーグライダ-や抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

⚠ 注意



- コーヒー豆ホッパーは絶対に食器洗い機で洗浄しないでください。

重要

- ※ 操作パネルを上にかかす
- 操作パネル裏の右側に、お/オフボタンがあります。
- ※ コーヒーマシンがお/オフになるまで、お/オフボタンを押す
- ※ 主電源からプラグを抜く
- ※ 豆ホッパーのロックを180°回し、開く



ロックを180°回す

- * コーヒー豆ホッパー - を持ち上げて外す
- * コーヒー豆ホッパー - を完全に空にし、軽く湿らせた布巾で丁寧に汚れをふき取る
- * コーヒー豆ホッパー - を完全に乾かす
- * コーヒー豆ホッパー - に豆を投入して元通り装着
- * 豆ホッパー - のロックを180°回し、閉じる



5.4.10 パウダーホッパー - のクリーニング

パウダーホッパー - は必要に応じて定期的にクリーニングしてください。

推奨: 毎月1回。

使用するパウダー - に応じて、クリーニング 回数を増やしてください。



- * 操作パネルを上に動かす
- 操作パネル裏の右側に、オン/オフ ボタンがあります。
- * コーヒーマシンがオフになるまで、オン/オフ ボタンを押す
- * 主電源からプラグを抜く
- * パウダーホッパー - のロックを180°回し、開く
- * パウダーホッパー - を後に傾け、持ち上げて外す
- * パウダーホッパー - を完全に空にする



- ※ 前後のニオンナットを外す
- ※ ホーシヨナーのスクリーを引き出す
- ※ パウダーホッパーに付着した汚れを軽く湿らせた布巾で丁寧にふき取る
- ※ ホーシヨナーのスクリーの個々の部品を入念にクリーニング
- ※ パウダーホッパーと個々の部品を完全に乾燥させる
- ※ ホーシヨナーのスクリーを再び組み立てて設置し、ニオンナットを締める



ホーシヨナーと個々の部品。ホーシヨナースクリー



排出口が正しい位置にきていることを確認してください。

- ※ パウダーホッパーにパウダーを充填して元通り装着
- ※ ロックを180°回転させて、再度閉めます

重要

6 HACCPクリーニングコンセプト



飲食店経営者には、来店するお客様が健康被害のおそれにとさらされることがないように、提供する食品への注意が法的に義務付けられています。危険の認識・判定のため、HACCP (Hazard Analysis Critical Control Points) クリーニングコンセプトの導入が必要になります。このマシンの使用場所でリスク分析を行うようにしてください。分析の目的は、食品衛生面で危険な個所の確認と解消にあります。そのためにはモニター・検査工程を定め、実施する必要があります。設置状態が適切で、ガタマケやメンテナンス、クリーニングが正しく行われている場合、WMFコーヒーマシンは上記の条件を満たした状態となっています。コーヒーマシンのガタマケとクリーニングが適正になされていない場合には、供給されるミルク飲料は食品衛生の面から危険があります。

HACCPクリーニングコンセプトの要件を満たすために、以下の項目をお守りください。

ミルクシステムを毎日消毒

- ガタマケの章にあるミルクシステムのクリーニングについての指示に従ってください。これにより、業務開始時にシステムに細菌がない状態を確保できます。



インフォメーションパッド  からは前回のクリーニングのプロトコルを呼び出すことができます。
USBパッド  から、HACCPプロトコルをエクスポートできます。

「1997年8月5日 食品衛生指令」

日常のクリーニング評価に当社のHACCPクリーニングコンセプトをご活用ください。

HACCPエキスポート
▷70° -ジ

WMFが認可した洗剤のみを使用してください。

ガタマケの章を参照
▷71° -ジ 以降

ヒント

業務開始時は常に新たに開封した冷蔵ミルクを使用

- 未開封のロングライフミルクは通常細菌は存在しません。業務開始にあたっては常に冷蔵しておいたミルクパックを新しく開けてお使いください。
- ミルクパックを開封する時には衛生面に特に注意してください。汚れた手やツールに付着した細菌が、ミルクパックを開く際に入り込むことがあります。

ミルクは冷蔵してください!

- 必ず冷蔵した予備の新しいミルクパックを用意しておいてください。
- ミルククーラーを使わずにマシンを使用するときは、ミルクをできるだけ早く使い切ってください。必要に応じてミルクを時々冷やしてください。
- 冷蔵していたミルクを開封後少ししか使わないときは、業務中も冷蔵してください。

推奨:

乳脂肪分1.5%のロングライフ牛乳を使用してください。

営業開始時のミルク温度は約6~8℃になっていなければなりません。

設定によっては1リットルのミルクで約20杯分のกาแฟを作れます。

WMFは各種クーラーオプションを用意しています(例: WMF 注文クーラー)。

HACCPクリーニングコンセプト

月 _____ 年 _____

冷蔵されたロングライフのみを使用してください。これを守らないと、微生物や細菌により健康に被害がおよぶ恐れがあります。

パッケージ飲料に使用するパッケージには必ず賞味期限内のものを使用してください。

クリーニングステップ:

- システムクリーニングを実施する
 - ▷取扱説明書、章「ケア」
- ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (イージ-ミルク)
 - ▷取扱説明書、章「ケア」
- 毎日のメンテナンス
 - ▷取扱説明書、章「ケア」
- 3a. 4時間運転後のミルクシステムクリーニングまたはコンビ供給口の交換(流量が少ない場合やミルクが冷却されない場合には必ず行ってください)
 - 3b. タイミング: コンビ供給口を定期的に外から清掃します。
 - 3c. 毎週のミキサークリーニング および製品おぼ- (豆/パッケージ)の定期的クリーニング
 - ▷取扱説明書、メンテナンスの章
 - ▷全般的なマシンのクリーニング

□	クリーニング ステップ				署名
	時刻				
	1	2	3	4	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
16.					

□	クリーニング ステップ				署名
	時刻				
	1	2	3	4	
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					
31.					

7 メンテナンスと加味抜き

本コーヒーマシンは業務用のため、定期的にメンテナンスと加味抜き作業が必要となりますのでご注意ください。

メンテナンスの時期はコーヒーマシンの使用期間により決まり、パネル上に通知されます。WMFサービスによるメンテナンスでは、同時に抽出装置の加味除去も実施されます。

コーヒーマシンは通知表示後も使用できますが、コーヒーマシンの機能異常や二次的な損傷を防ぐためにもお客様自ら早めにメンテナンスを行うか、メンテナンス作業の実施を依頼してください。

7.1 メンテナンス

パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMFサービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外には行わないでください。
メンテナンスレベルは以下のようになっています。

サービス・メンテナンス通知
▷通知と注意事項
91ページ

- パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMFサービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外には行わないでください。

サービス・メンテナンス通知
▷通知と注意事項
91ページ

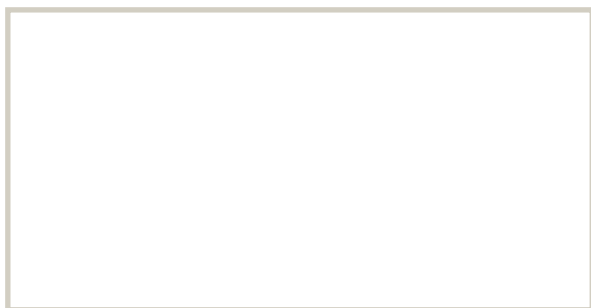
7.2 WMF サービス

WMFサービスにつきましては、お近くの修理センターが不明な場合は下記にお問い合わせください。

WMF Group GmbH
Eberhardstraße 35
D-73312 Geislingen (Steige)

重要!

メンテナンス、修理などにつきましてはお近くのWMFサービスまでお問い合わせください。電話番号はコーヒーマシンに貼ったラベルと納品書に記載されています。



8 メッセージと案内

8.1 操作上の通知

コーヒー豆を補充


※ コーヒー豆ホッパーを補充(表示参照)

※ 確認:

• コーヒー豆ホッパーのロックが解除されていますか?

▷カヌママーフ

• コーヒー豆がスムーズに落ちません。

※ 大きめのスプーンでかき回して  で確定する

給水してください

※ 水道の栓を開き、確定する

コーヒー加受けを空にする

※ コーヒー加受けを空にする

コーヒー加受けがありません

※ コーヒー加受けを再び正しく設置する

浄水フィルターを交換

※ 浄水フィルターを交換

浄水フィルターの取扱説明書を参照してください。

※ 必要な場合、WMF サービスに連絡

WMF サービスに連絡

エラー番号の表示

▷エラー通知と不具合

サービスメッセージ

この通知がパネルに表示されると、サービス・メンテナンスが必要です。

※ WMF サービスに連絡

サービス通知は注意事項です。通常、コーヒーマシンはそのままお使いいただけます。

8.2 エラー通知と不具合

エラー通知が表示されたときや不具合発生時の基本的手順は次の通りです。

- * コヒーレンスのスイッチを切り、数秒後もう一度スイッチを入れる
- * エラーが発生したときの操作を再試行


多くの場合、これによって不具合が解消され、正常に作動させることができます。


この操作で解消できなかった場合:エラー表示またはエラー番号をもとに以下の表を参照して対応してください。

それでも解消できないか表示されたエラーが記載されていない場合は、WMF サービスにご連絡ください。

通知の中には個別機能が停止するものがあります。この場合、飲料ボタンの照明が消えます。飲料ボタンが点灯している飲料では引き続き供給が可能です。

WMF WMF 5000 S+には診断プログラムが装備されています。発生したエラーはパネル上に表示されます。表示されるエラー通知は、原因の一つに主電源の異常も考えられます。

現在エラーが発生しているか、管理責任者への注意事項がある場合、パネル上  が表示されます。

- *  をタッチする

エラー通知およびエラー番号が表示されます。



コーヒーマシンはオン/オフボタンを押してから約1秒後に反応し、机になります。
不具合の解消のため(ソフトウェアのフリーズなど)、オン/オフボタンを長押しして制御システムの電源を切ってください。次に、コーヒーマシンの電源を入れます。

注意事項

エラー番号	エラーの内容	対応
88	ボイラー： 温度過昇	<ul style="list-style-type: none"> ※ コーヒーマシンのスイッチを切り、冷めてから再びスイッチを入れる ※ エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
161	700エラー： 抽出用熱湯	<p>以下の各ステップ間では、毎回コーヒーマシンのスイッチを切ってから、再び入れてください。エラーが解消されない場合、次のステップを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ グラインドの挽き目を粗く設定 ▷ソフトウェアシステム▷グラインドの挽き目の設定、67°-ジ ※ 品質レベルを下げる ▷設定▷レベル、45°-ジ ※ エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
186	スチームボイラー： 水位	<p>供給が一時的にロックされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ コーヒー加受けが正しく設置されているか確認 ※ コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる
188	加熱エラー	<ul style="list-style-type: none"> ※ コーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを抜く ※ WMF サービスに連絡
9083	クーラー温度が冷凍 レベルになっていま す	<ul style="list-style-type: none"> ※ クーラー温度の設定が低すぎないか確認
9507	700エラー： 水圧不足	<ul style="list-style-type: none"> ※ 給水栓を開き、水タンクに水を補充する ※ エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡

エラー番号	エラーの内容	対応
9516	右側のグライNDERがブロックされています	* ひっきりが緩むまで、挽き目を粗いレベルに設定する ▷ソフトウェアシステム ▷挽き目設定、ページ 67 * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9516	左側のグライNDERがブロックされています	

8.3 エラー通知なしの不具合

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • チョコが供給されないのにコーヒー受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * チョコの供給は使用しないこと * WMF サービスに連絡 (コーヒーの供給は可能)
<ul style="list-style-type: none"> • チョコホッパーの詰まり、チョコ飲料は水のみ供給される 	<ul style="list-style-type: none"> * ホッパーをクリーニング ▷カスタマーケア ▷パウダーホッパーのクリーニング、85ページ * パウダーホッパーを空にする * スクリューを手で回して、パウダーを完全に排出 * 必要であれば水洗いする * 全ての部品を完全に乾かす
<ul style="list-style-type: none"> • コーヒーの出方が左右で異なる 	<ul style="list-style-type: none"> * コffee 供給口のクリーニング ▷カスタマーケア ▷ミルクシステムを手動でクリーニング、80ページ
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクが容器に入っているのにミルクフォーム/ミルクが出ない 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクホースが折れたり、押しつぶされたりしていないか確認 * ミルクホースを正しく配置 * イージミルク: コffee 供給口をクリーニング * ダイミックミルク: コffee 供給口を手作業でクリーニング * ダイミックミルク: ミルクを補充し、カスタマーケアメニュー上で、「ミルクシステム補充」を選択 ▷ミルクシステム補充、39ページ * ミルククーラーが凍結していないか確認

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォームがきれいに仕上がらない • 温度が低すぎるか、高すぎる 	<p>ドイツミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * 品質チェックを実施する <p>イージ-ミルク</p> <ul style="list-style-type: none"> * 設定された温度がミルクの温度と一致するか確認 * コヒ® 供給口のクリーニング ▷カスタマーケア▷ミルクシステムを手動でクリーニング、80ℳ°-ジ°
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォーム供給時にミルクが飛び散る • ミルクが熱くなりすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクシステムがクリーニング® されているかを確認 * ミルクシステムをクリーニング® ▷カスタマーケア▷ミルクシステムを手動でクリーニング®、80ℳ°-ジ° * 使用しているミルクが十分冷蔵されているかを確認する
<ul style="list-style-type: none"> • パ°ウタ°-飲料供給なし 	<ul style="list-style-type: none"> * ミキサ-カップ° をクリーニング® * ホースが折れていないかチェック * クリーニング® とリンスを必要なら毎日でも実施 ▷カスタマーケア▷クリーニング® 頻度の概要、73ℳ°-ジ° ▷カスタマーケア▷ミルクシステムのクリーニング® (手作業)、80ℳ°-ジ° * パ°ウタ°-量を減らす * 水の量を増やす
<ul style="list-style-type: none"> • ホ°ン° が連続作動し、コーヒー受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
<ul style="list-style-type: none"> • チョコ製品容器をセットできない 	<ul style="list-style-type: none"> * ホ°-ショナーにあるホ°-ショナーのスクリー-用駆動系を手で時計回りに少し回す * チョコ製品容器が誤ってロックされていないか確認
<ul style="list-style-type: none"> • コーヒー-豆ホッパ°-をセットできない 	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒー-豆ホッパ°-が誤ってロックされていないか確認

9 安全性と保証

9.1 コーヒーマシンに対する危険



取扱説明書を確認

注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。設置・使用条件を守ってください。

設置場所

- 設置場所には必ず乾燥した水の飛び散らない場所を選んでください。
- コーヒーマシンからは常に少量の凝縮水や水、蒸気が流れ出る可能性があります。
 - > コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。
 - > コーヒーマシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
 - > 設置面への損傷を防ぐため、コーヒーマシンは必ず防水性があり、熱に強い敷物の上に設置してください。

コーヒーグ ラインダー

- 異物が混入するとコーヒーグ ラインダー が破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。

重要

保証の章に注意
▷100° -ジ 以降
設置と使用環境
▷17° -ジ 以降

コーヒーマシンの技術的トラブルや損傷を避けるために、以下の注意事項に従ってください：

- 5°dKH(炭酸硬度)以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルターをご使用ください。フィルターを使用しないと、カルシウムがコーヒーマシン内に堆積され、マシンが破損するおそれがあります。
- 安全を確保するために、業務終了時には必ず主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。水道水接続がある機械の場合、水道のメインコックは閉じていなければなりません。
- 損傷を防ぐために、以下の対策を推奨します：
 - 給水系に適切な水検出器を取り付ける
 - 煙感知器の取り付け
- 休みの(数日/数週間)後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニングプログラムを2回以上実行することを推奨します。

システムクリーニング
クリーニングプログラム
74°C以下で

9.2 ガイドライン

製造者: WMF Group GmbH, 73312 Geislingen
(Germany)

本機はMRL (MD) 指令2006/42/EC、EMC 指令
2014/30/EU および RoHS 2011/65/EU に関連する
全ての指令に準拠しています。

上述の製造者はこのマシンがこれらのガイドラインに関連
する全ての指令を遵守していることを宣言します。

当社の許可なしに装置に変更や改造を加えると、こ
の宣言は有効性を失うものとなります。技術関連資料
の作成: WMF Group GmbH.

本機には適合宣言書の原本が同梱されています。

本機にはCEマークが付与されています。

本機は現行のドイツ食品および飼料法記録 (LFGB)、
ドイツ消費財条例 (BedGgstV)、EU/2011、EC規則
1935/2004に準拠しています。

適正な目的で使用する場合、本機による健康被害
のおそれや、不当な危険はありません。

使用される材料および原材料は、ドイツ消費財条
例および欧州委員会 (EU) 規則No.10/2011に準拠
しています。

欧州以外の国ではその国で指定される条件が適用
されます。

本機は電気電子機械廃棄物指令 (WEEE 2012/19/
EU) により、一般廃棄物としての廃棄が禁止され
ています。

EC規則No. 1935/2004基準でのトレーサビリティを確立
し、EC規則No. 2023/2006に準拠した製造管理およ
び品質管理に関する基準による製造を確実に行う
ことを、当社は保証いたします。



廃棄の際には、WMF サービスま
でお問合せください。

連絡先
▷ 90° -ジ

9.3 管理責任者の義務

マシンの管理責任者は、WMF のサービス技術者、WMF の依頼を受けた技術者、またはその他の権限を有する技術者による定期的なメンテナンスと、安全に関する装置の点検を手配しなければなりません。

サービス領域へのアクセスが認められているのは、特に安全性や衛生面に関する本機の知識・経験が豊富なスタッフのみとなっています。

コーヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。

事務所やドアでの使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフが、カスタマーケア措置が守られていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。マシンを使用する施設の電気設備と運転設備が使用地域の規定に準拠していることを、管理責任者は確認しなければなりません(ドイツ法的損害保険組合規定3など)。コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、特にセーフティバルブと圧力容器の定期的な点検が必要です。

これらの措置はWMFサービス、またはWMFが権限を与えたサービス技術者によって、メンテナンス作業の一環として行なわれます。

マシンのクリーニングには、必ずWMFの指定によるコーヒーマシンのWMF特殊洗剤とミルクシステム用のWMF特殊洗剤をご使用ください。

メンテナンスのサイクルと頻度につきましては製造者が定める内容(▶メンテナンス)に従ってください。

クリーニング 頻度の概要

▷73° -ジ

HACCP

▷87° -ジ

WMF特殊カチン除去剤

▷アケサリとスハ°アハ° -ツ

105° -ジ

9.4 保証請求



取扱説明書を確認

- ・ 注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
> 設置・使用条件を守ってください。

購入者への保証の有無と、購入者への保証がある場合の保証条件は、購入者と販売者の間の取り決めによって定められるものとします。本取扱説明書の指示を無視して損傷が起きた場合は、保証の対象とはなりません。

保証対象外となるのは：

- ・ 日常的な使用で消耗する部品全般。パッキン、ミキサー、抽出装置などもこれに含まれます。
- ・ 天候の影響、ホワイ-の加付堆積、化学的/物理的/電気化学的/電氣的影響による不具合。
- ・ 現場の水の硬度により浄水フィルターの使用が必要であるにもかかわらず、浄水フィルターを使用しないで不具合に至った場合。
- ・ 本機の取り扱い、メンテナンス、カスタマーケアに関する規定（取扱説明書やメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた不具合。
- ・ WMF純正スパークパーツを使用しない場合や、マシンが購入者か第三者によって不適切に取り付けられている場合、あるいは不適切または十分な注意をとらなわらない取り扱いの結果として生じた不具合。
- ・ 購入者、または第三者によるWMFの許可を伴わない不適当なマシン修理、改造、調整の結果生じた不具合。
- ・ 取扱説明書に記述された用途以外の使い方をした結果生じた不具合。

重要

設置と使用環境
▷17ℳ°-ジ°以降

重要

メンテナンス
▷89ℳ°-ジ°

付録:テクニカルデータ

コーヒーマシンのテクニカルデータ

外寸	幅325 mm 高さ716 mm (ロック式コーヒ-豆ホッパ-込み) 奥行590 mm
コーヒ-豆ホッパ- パウダ-ホッパ- (オプション)	それぞれ約1,100 g ⁽¹⁾ 中央コーヒ-豆ホッパ-は約700 g ⁽¹⁾ 約2,000 g ⁽²⁾
空重量	約37 kg (装備により異なる)
水道	メインコックとフィルター (メッシュ幅0.08 mm) 付き3/8インチのホ-ス接続 (現場側で用意) ⁽³⁾ 流量2リットル/分時の最低水圧0.2 Mpa (2 bar)。 最大0.6 MPa (6 bar)。 最大供給温度35 °C。 新品のコーヒ-マシンおよび/または浄水フィルターに付属しているホ-セットを使用すること。使い古したホ-スは再使用しないでください。
水質	5 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルターをご使用ください。
排水パイプ (オプション)	ホ-スはDN 19以上、最低傾斜は2 cm/m
NNを超える高さでの使用	<2,000 m

予告なく仕様変更することがあります。

- (1) カップ容量はコーヒ-豆のサイズによって変化します。
- (2) オプションのパウダ-ホッパ-装着時のみ。カップ容量は使用するパウダ-の種類によって変化します。
- (3) コーヒ-マシンの給水接続には本規格 (IEC 60335-2-75) が適用されています。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒ-マシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしなくてはなりません。

定格消費電力	3.26 kW
電圧	200 V、50/60 Hz、(2/PE)
照明	LED
保護等級	IP X0
保護等級	等級
定格圧力	ホース 0.5 MPa (5 bar) スチームホース 1.6 MPa (16 bar)
連続騒音レベル(Lpa)	<70 dB (A) ⁽⁴⁾
周辺温度	+5 °C ~ +35°C (寒いときは凍結防止のため水抜き)。
最高湿度	相対湿度80%、結露なし。 屋外での使用は禁止。
設置面/水しぶき	本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。

予告なく仕様変更することがあります。

⁽⁴⁾ コーヒーマシン操作スタッフ周辺の作業環境におけるA特性音圧レベル(Lpa (A))とLpa (インパルス) は、作動モードにかかわらず常に70dB (A) 未満です。

<p>取り付け時の間隔</p>	<p>機能上、およびサビ・安全上の理由から、マシンの側面は壁もしくは非WMF製コンパネットから50 mm以上離して設置してください。背面では50 mm以上の安全距離が必要です。</p> <p>コーヒーマシン前の最小作業スペースは800mm、製品のホッパー部分上部の高さ最小スペースは200mmを確保することを推奨しています。設置面上端から上向きに1,100 mmのスペースを確保すること。床面からマシン設置面までは最低850 mmの高さを確保すること。コーヒーマシンの各種接続をマシン下からカウンターに通す場合、ライン敷設に必要なスペースに注意してください。敷設するラインによってマシン下の利用可能な空間が制限される場合があります。</p>
<p>浄水フィルターの取り付け寸法</p>	<p>浄水フィルターの取扱説明書を参照してください。</p>

予告なく仕様変更することがあります。

上記の電気接続基準と引用されている規格は、EU各国にてコーヒーマシンの接続規格として適用されます。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしてはなりません。

現場の電気設備は IEC 60364 規格に準拠して国が指定する規則に従い配備され、また、機銘板に記載される仕様情報に対応していなければなりません。本機のそばの、支障なくアクセスできる場所に、単相電源の場合 Schuko プラグソケットか使用国の基準の単相ソケットを、三相電源の場合は、DIN EN 50310 VDE 0800-2-310 に準拠した 5 極 CEE/CEKON ソケットか使用国基準の多極ソケットを用意してください。プラグソケットはお客様側でご用意ください。主電源ケーブルが高温になった部品に接触しないようにお気をつけください。本機の主電源ケーブルが損傷した場合は、危険防止のために WMF F サービスエンジニアか同等の資格を有するスタッフが交換を行ってください。

会計システムと接続して使用する場合、機械間の等電位化電流によって生じる可能性のあるケーブルのシールド線の不具合を防ぐため、追加の等電位化処理を行うようにしてください (DIN EN 50310 VDE 0800-2-310 参照)。

マシンを大型のキッチンに設置する場合には、接地・等電位ボンディング用導体をマシンに取り付けることを推奨します。アース端子 (等電位ボンディング) の取り付けは、必要に応じて WMF サービスエンジニアが行います。

付録:アクセサリとスハ°アハ°-ツ

数量	単位	名称	注文番号	装備
給水接続				
1	個	水道水接続での接続ホース	33 2292 1000	全て
1	個	排水ホース用エルボ°-	33 2165 8000	全て
1.5	メートル	排水ホース	00 0048 0042	全て
ツール				
1	個	マルチツール	33 2408 4000	全て
製品ホルダ°-				
1	個	豆ホッパ°-とパ°ウタ°-ホッパ°-のフタ	33 2655 7099	全て
1	個	中サイズ°豆ホッパ°-のフタ	33 2655 8099	全て
1	個	ユー°ヒ°豆ホッパ°- / 製品ホルダ°-の識別ラベル	33 2624 7000	全て
ミルクミキサーシステム				
1	個	ダブルフォームフル	33 2867 5300	イ°ジ°-ミルク
1	個	ミルクカバー°-	33 2614 9000	イ°ジ°-ミルク
1	メートル	ミルクホース	00 0048 4948	全て
1	個	ミルクホースのばね	33 0190 3000	全て
1	個	ミルクホース用スリーブ°	33 2180 5000	全て
1	個	ブ°ラ°グ°・アント°・クリーン°ラ°グ°・アント°・クリーン°アダ°プ°タ°	33 2427 5000	全て
1	個	ミキサーカップ°	33 2895 4000	パ°ウタ°-
0.25	メートル	ミキサーホース	00 0048 0064	パ°ウタ°-
ト°リップ°トレイ°/ト°リップ°ゲ°リット°				
1	個	スチ°ム°ジ°エ°ット°付き°ト°リップ°トレ°	33 2633 7100	スチ°ム°ジ°エ°ット°付き
1	個	スチ°ム°ジ°エ°ット°なし°ト°リップ°トレ°	33 2633 7000	スチ°ム°ジ°エ°ット°なし
1	個	スチ°ム°ジ°エ°ット°付き°ト°リップ°ゲ°リット°	33 2633 8100	スチ°ム°ジ°エ°ット°付き
1	個	スチ°ム°ジ°エ°ット°なし°ト°リップ°ゲ°リット°	33 2633 8000	スチ°ム°ジ°エ°ット°なし

付録:アクセサリとスポンジ

数量	単位	名称	注文番号	装備
WMF ケアプログラム				
1	パック	クリーニングタブレット(100個)	33 2332 4000	全て
1	パック	ミルクシステム専用クリーニングタブレット	33 2622 0000	全て
1	個	ミルクシステム用クリーニングスポンジ	33 2593 6000	全て
1	個	ミルクシステム-フタ用クリーニングスポンジ	33 2593 7000	全て
1	個	パイプクリーナー	33 0350 0000	全て
1	個	クリーニングブラシ	33 1521 9000	全て
1	チューブ	WMF「ハッキン用ケリス」Molykote	33 2179 9000	全て
トピック				
1	個	資料一式:WMF 5000 S+	33 4186 6060	全て

索引

- 2.ミルシム種類 36
- アセザリとスベアパーツ 105
- アニメーション 39
- イベントの表示 64
- インフォメーション 55
- ICモード 66, 68
- ICモードの概要 61
- ICモード状態 61
- IC表示 50
- IC通知と不具合 92
- IC通知なしの不具合 94
- オートスチム 27
- オン/オフ タン 19
- ガイド ライン 98
- カウンタ 56
- カウンタの工場コード 70
- カスタマーケア 38, 55, 71
- カップウォーマー 19, 37
- カップサイズ 50
- カップサイズ調整 35
- カップ容量 41, 50
- カップ容量 S/M/L 41
- カップ容量選択 25
- カップ高さ 47
- 加熱除去液 55
- クリティレベル 45
- クリーニング PIN 58
- クリーニングプログラム 74
- クリーニング(手作業) 78
- クリーニング頻度 73
- クリーニング 39
- コヒー受け 19, 30
- コヒー受けの清掃 78
- コヒー脱落し(オプション) 30
- コヒーグライダースelection 46
- コヒーの品質 45
- コヒーマシンに対する危険 96
- コヒーマシンのスイッチを入れる 23
- コヒーマシンのテクニカルデータ 101
- コヒーマシンの各部名称 18
- コヒー粉の量 44
- コヒー豆ホッパー 19
- コヒー豆ホッパーのクリーニング 84
- コヒー豆ホッパー/バウダーホッパー 28
- コンベア供給口を手作業でクリーニング 80
- サービス 55
- サイド照明 19
- システム 62
- システムクリーニング 38, 74
- スイッチ オフリス 66
- スタートストップ 42
- スタートストップ プリフロー 42
- スチムシット 19, 49
- スチムシット エット 19, 34, 37
- スチム/ズル 19
- スチム/ズルのクリーニング 82
- スチムホーン 36
- スチム供給(オプション) 26
- セルフサービス 48
- セルフサービスモード 48
- ソフトウェア 32
- タイマー 55, 59
- タイマーステータス 60
- タイマー予定表とタイマーの設定 59
- タイマー設定 59
- タッチパッドのキャリブレーション 64
- データバックアップ 70
- データをロードする 70
- ディスプレイと照明 63
- ディスプレイ照度減少 64
- デカフェ係数 52
- テキストと画像 46
- テクニカルデータ 101
- ドリフトラ 31
- ドリフトラのクリーニング 39, 79
- バウダーホッパー(オプション) 19
- バウダーホッパーのクリーニング 85
- パッドの照度 64
- パッドの背景 64
- パッド上の通知 33
- パッド 48
- パッド/パッド - コヒーの濃さ 35
- ファームウェアの更新 70
- フィルターの容量 66
- ウォーマーのリス 77
- フロー 42
- プログラム デイ 62
- プロット 55
- ボスレクション 52
- ボタンのレイアウト 51
- ボタンの入れ替え 47
- ボタンレイアウトの概要 60
- ボタンレイアウトの状態(タイマー) 60
- ホットインパッド 19, 35, 49
- マニュアル投入パッド 51
- マニュアル投入口 29
- ミルクシステムのリリス 39
- ミキサーのクリーニング 81
- ミキサーリス 38, 75
- ミルクシステムのクリーニング 38, 39, 76
- ミルクシステムのクリーニング(手作業) 80
- ミルクシステム補充 36, 39, 51
- ミルクの保管温度 62
- ミルクの量 44
- ミルクウォーマー内蔵型コンベア供給口 19
- ミルクフォームの供給 23
- ミルクフォームの選択 53
- ミルク/ミルクフォームの供給 23
- ミルクを冷やす 23
- メーカーコード 54
- メニューの機能 33
- メッセージと案内 91
- メニューパッド 19, 49
- メニュー制御パッド 33
- メンテナンス 89
- メンテナンスと加熱抜き 89
- レベルについての備考 46
- レベルのバックアップ 40
- レベルの保存 70
- レベルの変更 43
- レベルをロードする 40, 69
- コード 54
- 一般的な安全上の注意事項 7
- 事前選択パッド(オプション) 24
- 会計 56
- 会計PIN 58
- 使用目的 14
- 供給オプション 42
- 供給テスト 40
- 供給可能 32
- 供給可能表示 19, 34
- 供給可能表示のパッド 32
- 保証対象外となるのは: 100
- 保証請求 100
- 前回の抽出 55
- 取り付け時の間隔 103
- 取り外し可能な
 - ドリフトラ(ドリフトラ付) 19
- 取扱説明書の記号 20
- 取扱説明書の記号とマーク 20
- 外装のクリーニング 79
- 外部会計 56
- 安全上の注意事項 カスタマーケア 71
- 安全性 7
- 安全装置 7
- 定格消費電力 102
- 工場出荷時設定で用意されている組
 - 加オプション 43
- 抽出圧表示 67
- 挽いたコヒーでコヒーをいれる 29
- 挽き目設定 67
- 操作 22

索引

操作オ^プション 48
操作についての安全上の注意事項 22
操作に関する部分 48
操作パ^スワード 19
操作パ^スワードをクリーニング (クリーニング) 78
操作上の通知 91
新しいPINを入力 58
日 61
時刻 61
本日の詳細 59
栄養成分情報 35, 49, 68
概要 18, 32
機能ライン 34
水質 101
水道 101
洗浄剤投入口 19
浄水フィルター 55, 65
湯量 44
無料設定 57
照明 63
熱湯/ス^トル 19
熱湯供給 25
現在のレ^ベル 構成 43
用語集 21
硬度 65
硬度の計測 65
管理責任者の義務 99
総硬度 66
総硬度の計測 66
自動販売機 56
複数抽出 42
言語 68
言語をロ^ットする 70
言語が^レ選択 51
設定PIN 58
設置と使用環境 17
設置面 102
説明 39

追加オ^プションの削除 44
追加オ^プションの変更 44
追加物 43
飲料 40
飲料のキャンセル 24, 53
飲料のマークをロ^ットする 69
飲料ア^プレ^レクション 53
飲料ホ^ッタン 19, 34
飲料ホ^ッタンと設定用パ^スワード 19
飲料供給 24
飲料:文字 + 色 65

H

HACCPイ^カス^ト 70
HACCPクリーニング コ^ンセ^プト 87

P

PIN権限 57

S

S/M/Lホ^ッタン 25
S/M/L機能 41, 67

U

USB 69

W

WMF サ^ービ^ス 90

お

お客様コ^ウ 54





お近くのWMF サービス:

© 2018 WMF Group GmbH

複製、配布、翻訳など全権利を保有します。書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全てを何らかの形で複製したり、電子システムを使用して処理、複写、配布したりすることは固く禁じられています。

デザインと製作/テキストおよび構成:

TecDoc GmbH; Geislingen, info@tecdocgmbh.de

取扱説明書(翻訳版)日本国内で印刷。

予告なく仕様変更することがあります。

21.12.2018

5000 S+